

がいこくせき ようじ も ほごしゃ
外国籍の幼児を持つ保護者のための

にほん ほいくしせつにゆうえん えんせいかつ てびき
日本の保育施設入園と園生活の手引

For guardians of children of foreign nationality

Guide to admission to childcare facilities and
children's life in a childcare facility in Japan



この手引きには次のことが書かれています

- ・日本の幼児教育、保育施設の種類と特徴
- ・入園の手続き
- ・幼児教育・保育施設のルール
- ・入園の準備
- ・子どもの園生活で心配なこと
- ・保育やルールに疑問や不満、要望があるとき

This handbook contains the following:

- Types and characteristics of childcare facilities in Japan
- Procedures for admission
- Rules for early childhood education and childcare facilities
- Consideration for children attending childcare facilities
- When guardians have something to worry about
- When guardians have doubts, dissatisfaction or requests regarding childcare or rules

もくじ

はじめに	1
1. 日本の幼児教育・保育施設の種類と特徴	2
幼児教育・保育施設の種類とそれぞれの特徴	
対象年齢 入所の条件 保育時間 休日・保育期間	
保育料その他の費用	
保育内容・方法 保育行事 日本の保育の良いところ	
2. 入園の手続き	10
入園の相談	
幼稚園、保育所、認定こども園の入園の手続き	
一時保育(一時預かり)の利用方法	
3. 日本の保育施設の一般的なルール	13
時間の遵守 欠席や遅刻などの連絡をする 行事や会議への参加	
保護者の仕事や休みの日の登園 子どもの送迎 服装等	
4. 入園の準備	17
生活習慣の確立 入園説明会 持ち物の準備 入園を期待させる	
5. 心配なことがあるとき	20
子どもが園の生活に慣れることができないのではないか	
園に行くことが疲れるのではないか	
自分と先生との会話がうまくいかないのではないか	
友だちとうまくやっけていけるだろうか	
子どもが給食(日本食)を食べることができないのではないか	
子どもの母語はどうなるのか	
6. 保育に対して疑問や不満、要望があるとき	26
よくある疑問、不満、要望に答えます	
英文ページ (English edition)	32~64

はじめに

げんざい にほん ようじきょういく ほいくしせつ がいこくせき こ ほいく う
現在、日本の幼児教育・保育施設では、たくさんの外国籍の子どもたちが保育を受け
ています。これから先、外国籍の子ども数は多くなることが予想されています。

がいこくせき こ ほごしや たいしやう わたし ちやうさ にほん ほいくしせつ たい
外国籍の子どもを保護者を対象にした私たちの調査では、日本の保育施設に対する
ほごしや ひやうか たか おも いっぽう ようじきょういく ほいくしせつ
保護者の評価はとても高く、うれしく思います。その一方で、幼児教育・保育施設へ
にゆうえん てつづ むずか かん ほごしや ぶんが しゅうかん かちかん ちが ようじきょういく
の入園の手続きが難しいと感じる保護者、文化や習慣、価値観の違いから幼児教育・
ほいくしせつ るー きょういく ほいく ないよう ほうほう ぎもん ふまん かん ほごしや おお
保育施設のルール、教育・保育の内容や方法などに疑問や不満を感じる保護者も多い
ようです。

がいこくせき こ ほごしや にほん ようじきょういく ほいく りかい あんしん こ
外国籍の子どもを保護者に日本の幼児教育・保育を理解していただき、安心して子
どもをようじきょういく ほいくしせつ い てびき さくせい みな
どもを幼児教育・保育施設に入れていただくために、この手引を作成しました。皆さ
んのこ にほん ようじきょういく ほいくしせつ せいかつ たの せいちやう にほん
ん子どもが、日本の幼児教育・保育施設での生活を楽しみ、しっかりと成長し、日本
でのせいかつ たの おもいで ねが
での生活が楽しい思い出となることを願っています。

「日本の保育施設入園と園生活の手引」作成グループ

たなか	としあき
田中	敏明
かわまた	みさこ
川俣	美砂子
すぎむら	ともこ
杉村	智子
やの	ようこ
矢野	洋子
この	あいこ
古野	愛子
いまづ	しょうこ
今津	尚子

1. 日本の幼児教育・保育施設の種類と特徴

① 日本の幼児教育・保育施設の種類

日本には、幼稚園、保育所、認定こども園という3の幼児教育・保育施設があります。

これ以外にも、地域型保育事業や一時保育などの保育サービスがあります。

幼稚園は、主に教育を行うところで、保育時間は4時間から6時間と短いです。

保育所は、仕事や通学で子どもの世話ができない保護者のための園です。保育時間は8時間から11時間と長いです。

認定こども園は、幼稚園と保育所の両方の役割を持っています。

保護者が働いている（学校に通学している）かどうか、何時間働いているか、昼の間、子どもの世話をする人がいるかどうかなどの事情に応じて、3つの幼児教育・保育施設の中から1つを選ぶことになります。

幼稚園、保育所、認定こども園、地域型保育、一時保育について紹介します。

この手引きでは、保育施設はすべて、入園、登園、降園、卒園など、「園」といういいかたをします。

幼稚園

特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳以上の子どもを対象に幼児教育を行うところです。 ・2歳から入園できる幼稚園もあります。
入所の条件	<ul style="list-style-type: none"> ・条件はありません
保育時間	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の規定で1日4時間程度と決められています。 ・私立幼稚園は朝9時ごろから午後2～3時ごろまで保育があります。 ・公立幼稚園は週2日～3日は朝9時から午後2時ごろまで、それ以外の日は午前中で終わるところがあります。
保育をする日	<ul style="list-style-type: none"> ・月曜日から金曜日（土曜、日曜、祝日は休み） ・夏休み、冬休み、春休みがあります。
預かり保育	<ul style="list-style-type: none"> ・働く保護者のために、預かり保育があります。保育時間が終わった後、午後6時ぐらいまで子どもを預かります。 ・土曜日や夏休み、冬休み、春休みも子どもを預かります。 ・幼稚園によっては、預かり保育がないところ、預かる曜日や期間が異なるところがあります。園に確認してください。
保育料	<p>3歳児以上：原則無料ですが、幼稚園によって月5,000円から10,000円必要などところがあります。</p> <p>2歳児：1か月25,000円～40,000円で、幼稚園によって違います。</p>

	これ以外にも、入園料(30,000円～80,000円)、施設料年間(20,000～30,000円)が必要などがあります。入園を希望する園に確認してください。
--	--

保育所

特徴	・0歳から6歳までの子どもを対象に、教育と養護(日常生活の世話)をするところです。
入所の条件	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が仕事があるため、昼の間子どもの世話をする人がいないこと ・(1か月64時間以上働いていることが条件です) ・妊娠と出産(出産予定日の前後それぞれ2か月) ・保護者の病気、けが、または心身障害 ・一緒に住んでいる、または長期入院している親族などの介護・看護 ・卒業後の就労を目的として、職業訓練校や大学等へ通学していることなどがあります
保育時間	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所の保育時間は、午前7時または午前7時半から午後6時または7時。 ・保育を受けられる時間は、1日の最大利用時間が11時間の「保育標準時間」、8時間の「保育短時間」という2つの保育時間があります。保護者の働く時間が1か月120時間以上であれば「保育標準時間」、120時間より少なければ「保育短時間」となります。
保育をする日	<ul style="list-style-type: none"> ・月曜日から土曜日(日曜、祝日は休み) ・年末、年始の休みがあります。
延長保育	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事の都合などで、1日8時間または11時間を超える場合には、1日1時間または2時間程度の延長保育があります。
保育料	<ul style="list-style-type: none"> 3歳児以上:保育を受ける時間に関わらず無料です。 0歳児～2歳児:保護者の収入や住んでいるところによって違います。0円から70,000円と幅があります。

認定こども園

<p>認定こども園は、幼稚園教育を受ける子ども、または保育所保育を受ける子どもの両方を受け入れるところです。子どもは3種類に分けられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3歳以上で幼稚園教育を受ける子ども ・1号認定と言います
--

・3歳以上で保育所保育を受ける子ども・2号認定と言います
・3歳未満で保育所保育を受ける子ども・3号認定と言います
1号認定は上の表の幼稚園のところが、2号認定、3号認定は前のページの表の保育所のところが当てはまります。

地域型保育事業

保育ニーズの高い0～2歳児への対応を目的として設けられた規模の小さい保育所です。一般の保育所より少人数で、0歳から2歳の乳幼児を保育をします。

次の4つの種類があります。

「家庭的保育」

家庭的な雰囲気の中で、少人数(定員5人以下)を対象にきめ細かな保育を行います。

「小規模保育」

定員6～19人と少人数で運営される保育所です。

「事業所内保育」

事業所内(会社のなか)に保育施設があり、企業が運営する保育所です。地域の子どもも受け入れます。

「居宅訪問型保育」

集団保育が非常に困難だと認められる障害や病気があるなどの子どもの家庭を訪問し、その家庭において1対1で保育する事業です。

これらの施設の申し込みの手続きは、保育所と大体同じです。

一時保育 (一時預かり)

- ・幼稚園や保育所、認定こども園に通園していなくても、保育所や認定こども園に一時的に預けることができます。
- ・保護者の病傷、事故、出張、家族の看護、結婚式や葬式、心身のリフレッシュ、趣味やボランティアへの参加など、どんな理由でも預けられます。
- ・1日～数時間単位で利用できます。料金は預ける時間によって異なりますが、1日3000円程度です。予約が必要です。

① 日本の保育内容・方法

日本には、保育の内容や方法に関する国の決まりがあります。

国の決まりでは、次のことを大切にして保育を行うことが求められています。

〈保育の方法〉

・保育は、環境を通して行う

子どもたちは、自然物、遊具、教材、友達、先生、施設などにかかわり、体験を重ねながら育っていくという方法です。

・子どもの主体的な活動を大切にする。

子どもの「〇〇がしたい」という思いを大切にし、子どもたちが自分で考え、気づき、発見し、解決することを大切にします。

・発達に即した保育を行う。

子どもたちの発達を理解し、発達にふさわしいねらいを設定し、環境を構成し、子どもたちの主体的な活動を通して子どもたちを成長させていきます。

・遊びを通して指導をする。

遊ぶことによってたくさんの方が育ちます。幼児教育は遊びを通して行うことが原則です。遊びながらねらいが達成されるように、遊びの計画をたてます。

・子ども一人一人の個性を大切にする

発達の早い遅い、興味の違い、性格、障害があるかどうかなど一人一人の子どもに個性があります。一人一人の個性を大切にして、一人一人の子どもたちが楽しく充実した園生活を送れるような保育を行います。

〈保育で育てるもの〉

日本の保育では次のことを育てます。下の表は、3歳以上の保育で育てるものです。

幼稚園、保育所、認定こども園共通です。

日本の保育で育てるもの(文部科学省作成の幼稚園教育要領から)

〈健康〉

【健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。】

- (1) 先生や友達と触れ合い、安定感をもって行動する。
- (2) いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。
- (3) 進んで戸外で遊ぶ。
- (4) 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。
- (5) 先生や友達と食べることを楽しみ、食べ物への興味や関心をもつ。
- (6) 健康な生活のリズムを身につける。

- (7) 身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でする。
- (8) 幼稚園(保育所、認定こども園)における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する。
- (9) 自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う。
- (10) 危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気をつけて行動する。

人間関係

[他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う。]

- (1) 先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。
- (2) 自分で考え、自分で行動する。
- (3) 自分でできることは自分でする。
- (4) いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。
- (5) 友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合う。
- (6) 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。
- (7) 友達のよさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。
- (8) 友達と楽しく活動する中で共通の目的を見いだし、工夫したり、協力したりなどする。
- (9) よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。
- (10) 友達との関わりを深め、思いやりをもつ。
- (11) 友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気付き、守ろうとする。
- (12) 共同の遊具や用具を大切に、皆で使う。
- (13) 高齢者をはじめ、地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。

環境

[周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。]

- (1) 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。
- (2) 生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ。
- (3) 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。
- (4) 自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ。
- (5) 身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする。
- (6) 日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ。
- (7) 身近な物を大切ににする。
- (8) 身近な物や遊具に興味をもって関わり、自分なりに比べたり、関連付けたりしながら考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。
- (9) 日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ。
- (10) 日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ。
- (11) 生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ。

(12) 幼稚園内外の行事において国旗に親しむ。

ことば
〈言葉〉

〔経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。〕

- (1) 先生や友達の言葉や話に興味や関心をもち、親しみをもって聞いたり、話したりする。
- (2) したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する。
- (3) したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする。
- (4) 人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。
- (5) 生活の中で必要な言葉が分かり、使う。
- (6) 親しみをもって日常の挨拶をする。
- (7) 生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く。
- (8) いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。
- (9) 絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像をする楽しさを味わう。
- (10) 日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう。

ひょうげん
〈表現〉

〔感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。〕

- (1) 生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。
- (2) 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。
- (3) 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。
- (4) 感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする。
- (5) いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。
- (6) 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。
- (7) かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする。
- (8) 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。

保育所と認定こども園では、教育とともに、保護者が仕事をしている間、保護者にかかわって子どもの世話をする「養護」も行います。「養護」の内容は次の表のとおりです。

保育所、認定こども園で行う「養護」の内容

〈ア 生命の保持〉

- ① 一人一人の子どもの平常の健康状態や発育及び発達状態を的確に把握し、異常を感じる場合は、速やかに適切に対応する。
- ② 家庭との連携を密にし、嘱託医等との連携を図りながら、子どもの疾病や事故防止に関する認識を深め、保健的で安全な保育環境の維持及び向上に努める。

- ③ 清潔で安全な環境を整え、適切な援助や応答的な関わりを通して子どもの生理的欲求を満たしていく。また、家庭と協力しながら、子どもの発達過程等に応じた適切な生活のリズムがつくられていくようにする。
- ④ 子どもの発達過程等に応じて、適度な運動と休息を取ることができるようにする。また、食事、排泄、衣類の着脱、身の回りを清潔にすることなどについて、子どもが意欲的に生活できるよう適切に援助する。

〈イ 情緒の安定〉

一人一人の子どもの置かれている状態や発達過程などを的確に把握し、子どもの欲求を適切に満たしながら、応答的な触れ合いや言葉かけを行う。

- ② 一人一人の子どもの気持ちを受容し、共感しながら、子どもとの継続的な信頼関係を築いていく。
- ③ 保育士等との信頼関係を基盤に、一人一人の子どもが主体的に活動し、自発性や探索意欲などを高めるとともに、自分への自信をもつことができるよう成長の過程を見守り、適切に働きかける。
- ④ 一人一人の子どもの生活のリズム、発達過程、保育時間などに応じて、活動内容のバランスと調和を図りながら、適切な食事や休息が取れるようにする。

② 保育行事

日本の園では、いろいろな季節の行事や伝統行事を行います。行事は、大きくなってからも子どもの心に残るとても楽しいものです。主な行事を紹介します。これ以外にも、特色のある行事を行っている園があります。

園で行われる行事

行事の名前	時期	内容
誕生会	毎月1回	みんなで歌をうたったり、ゲームをしたりして、誕生月の子どもを祝います。子どもたちが作った誕生カードや手形カードをプレゼントします。
遠足	5月または10月	お弁当を持って公園、海、山、動物園などに行きます。みんなで外で一緒に食べるお弁当はとてもおいしいです。
七夕	7月	日本に古くから伝わる「七夕」のお話を聞きます。紙に自分のお願いを書いて竹に飾ります。
敬老の日	9月	近所のおじいちゃんやおばあちゃんを園に招きます。一緒に歌をうたったり、製作をしたり、

		昔の遊びや伝承遊びを教えてもらったりして、おじいちゃんおばあちゃんとの交流を深めます。
運動会	6月または10月	かけっこや玉入れなどの競技に加え、各学年の集団演技もおこなわれます。家族も参観し、子どもと一緒に弁当を食べます。
お正月	12月末～1月	新しい年を迎えるために「もちつき」をします。お正月になると羽根つき、凧揚げ、カルタなどお正月の遊びをします。
節分	2月	「鬼は外」「福は内」と言いながら豆をまきます。春が来ることを喜び、みんなの幸せを祈る行事です。
発表会	2月	子ども達の様々な作品を展示したり、歌や劇を家族のみんなに見てもらいます。
卒園式	3月	子どもたちが、たくさんの園生活の思い出を持って、卒業していく日です。先生たちは、子どもがここまで育ててくれたことに感動しながら、一人一人の子どもを送り出します。

日本の幼児教育・保育施設のよいところ

調査によると、日本の幼児教育、保育施設を利用した外国籍保護者のうち90%の人が、日本の幼児教育・保育施設は「とてもよかった」と感じています。外国籍の保護者が「とくによかった」と感じるのは次のような点です。

日本の幼児教育・保育施設のよいところ (外国籍保護者を対象にした調査から)

- ・保育者がやさしいこと
- ・自然との触れ合いが多いこと
- ・給食がおいしいこと
- ・勉強を教えてくれること
- ・子どもを自由に遊ばせること
- ・子どもが楽しいと感じること
- ・保育料が安いこと

にゅうえん てつづ 2. 入園の手続き

外国籍の保護者にとって、入園の手続きは複雑で、とくに保育所や認定こども園の手続きは難しいです。わからないときは、入園したい園や住んでいる市町村の役所で尋ねてください。子どもを入園させたことのある外国籍の保護者に尋ねることができれば、分かりやすいと思います。入園の手続きを説明します。

ようちえん 幼稚園

公立幼稚園と私立幼稚園があり、手続きには違いがあります。

公立幼稚園の場合

- ◆ 入園資格：幼稚園がある市町村に住んでいる3歳児～5歳児
- ◆ 入園願書を受け付ける期間：市町村によって異なります。11月1日から10日間のところが多いです。土曜、日曜は受け付けません。
- ◆ 提出する書類：入園願書 教育・保育給付認定申請書
- ◆ 入園願書を受け付ける場所：入園を希望する幼稚園
- ◆ 入園願書等の配布場所：入園を希望する幼稚園 市役所・町村役場、区役所の窓口
- ◆ 面談会：入園の願書を出したあと、指定された日に、幼稚園で面談説明会があります。親子で参加してください。

私立幼稚園の場合

- ◆ 入園資格：入園を希望する3歳児～5歳児
2歳児、または3歳になった日から受け入れるところがあります。
- ◆ 受付期間：11月に受け付けるところが多いですが、多くの私立幼稚園は定員に空きがあればいつでも受け付けています。
- ◆ 提出する書類：入園願書 教育・保育給付認定申請書
- ◆ 入園願書を受け付ける場所：入園を希望する幼稚園
- ◆ 入園願書等を受け取る場所：入園を希望する幼稚園
- ◆ 面談会：入園の願書を出したあと、指定された日に、幼稚園で面談説明会があります。親子で参加してください。

ほいくじょ 保育所

公立保育所と私立保育所がありますが、両方とも同じ手続きです。保育所入園の手続きは、次のような流れになります。

保育所の入園手続き

保育所見学⇒ 住んでいる市町村の市役所保育課への事前相談⇒ 入園資格の確認⇒
提出書類の準備⇒ 入園申込み書類を提出⇒ 保育所入園ができるかどうかの知らせが
届く

保育所見学

保育所見学をして、どのような保育所かを自分の目で見ておくことで安心です。見学は、保育所に直接申し込みます。

住んでいる市町村の市役所保育課への事前相談

どのような保育所があるのか、子どもを入園させることができるのか、入園の手続きや必要な種類、保育料等のわからないことを、市町村の担当窓口で直接相談しましょう。

入園資格の確認

すでにお話ししましたが、次のどれかに当てはまれば子どもを保育所に入園させることができます。

- ア、保護者の仕事のため、子どもの世話をする人がいないこと（月60時間以上働いていることが条件です）
- イ、妊娠と出産（出産予定日の前後各2か月）
- ウ、保護者の病気、けが、または心身障害
- エ、いっしょに住んでいる、または長期入院している親族などの介護・看護
- オ、卒業後の就労を目的とした職業訓練校や大学等へ通学していること
などがあります

提出書類の確認

【全員に提出が求められる書類】

- ・保育所等利用申込書、教育・保育給付認定・施設等利用給付認定申請書
- ・児童の状況確認書
- ・保育の必要性を確認する書類（就労証明書・診断書・在学証明書など）
- ・外国籍で永住権がない場合は在留カードの両面写し
- ・これ以外の書類が必要なこともあります。

入園申込み書類を提出

4月1日の入園であれば、前の年の10月から11月ごろに申し込みます。

それ以外の期間でもいつでも申し込むことができます。

市町村の担当窓口へ郵送、または直接申込み書類を提出します。

認定こども園

認定こども園は、幼稚園教育を受ける子どもと保育所保育を受ける子どもの両方を受け

入れるところです。子どもは3種類に分けられます。

3歳以上で幼稚園教育を受ける子ども・・・1号認定と言います

3歳以上で保育所保育を受ける子ども・・・2号認定と言います

3歳未満で保育所保育を受ける子ども・・・3号認定と言います

1号認定の子どもの入園手続き～幼稚園の手続きと同じです

2号認定、3号認定の子どもの入園手続き～保育所の手続きと同じです

一時保育(一時預かり)の利用方法

◆近くに一時保育を行っている施設があるか調べてください。

一時保育をしている保育園のリストは、自治体の窓口やホームページで確認できます。

◆利用を志望する施設に登録します

初めて利用する場合は、面談して子どもの状況などを話し、登録書類を提出します。

◆利用の予約をします。

事前の予約が必要です。利用希望日と利用時間を伝えて予約してください。予約が取れない時もあります。

●利用時間・利用日数の制限があります

一時保育は通常の保育園とは違い、一時的な保育のため、週何回までというように利用日数や1日の利用時間に上限があります。

●料金は施設によって違います

料金は、地域や施設によって違いはありますが、認可保育園の場合は、1時間で500～600円、1日で2,000～5,000円程度です。預ける時間によって違います。



3. 日本の園の一般的なルール

日本の園(幼稚園・保育所・認定こども園など)、には保護者に守ってほしいルールがあります。代表的な6つのルールについて、説明します。これ以外にも、それぞれの園独自のルールがあります。子どもが入園する園に確認してください。

- (1) 時間を守る
- (2) 欠席などの連絡の必要性和、連絡の方法
- (3) 会議や行事への参加
- (4) 保護者の仕事や休みの日の子どもの登園
- (5) 園への送り迎え
- (6) 子どもや保護者の服装や持ち物など

(1) 時間を守る

・受け渡しの時間厳守

登園や降園の時間には、園によってきまりがあります。子どもを保育施設に預けるとき、引き取るときには、決められた時間までに到着しましょう。遅れる場合は、事前に連絡することも大切です。

(2) 欠席や遅刻などの連絡をする

・欠席や遅刻の連絡の必要性

保護者が子どもを園に連れていけない場合や、子どもが欠席をする場合は、できるだけ早く園に連絡をするようにしましょう。これにより、園がスムーズに運営でき、ほかの子どもたちへのサポートも十分に行えます。子どもの安全のために、連絡がない遅刻や欠席の場合は、園から家庭へ連絡をします。

保育施設の仕事を少なくするためにも、早めに連絡を入れるようにしましょう。

・欠席や遅刻の連絡

欠席や遅刻をする場合の連絡の方法は、園によって違いがあります。電子メール、LINE、チャットシステムへの入力などいろいろあります。欠席や遅刻、早退をすることがわかったら、園の決まりに合わせて、できるだけ早く連絡をしましょう。

・送迎者の委任

保護者が、仕事などの用事で子どもを保育施設に送ることが難しいとき、代わりの送迎者を指定することになります。そのときは、保育施設にそのことを伝えることが必要です。園に委任状を出す場合もあります。これは、子どもの安全のためにとっても大切なことです。

・連絡帳

保護者に子どもの様子を伝えたり、保護者と保育施設とのコミュニケーションを円滑にするために、連絡帳が使用されることがあります。園での出来事、子どもの健康状態、重要な情報などが記録されます。

連絡帳は必ず読み、家庭での子どもの様子など園に伝えたいことがあれば、連絡帳に書いてください。

(3) 行事や会議への参加

保護者が参加する運動会や発表会の行事や、保育参観、保護者会、面談などがあるときは、特別な用事がない限り参加してください。園での子どもの様子や園の教育や保育を理解するための大切な機会です。もし、仕事などで参加できないときは、ほかの家族が代わりに参加するようにしましょう。誰も参加できないときは、事前に連絡して、参加しない理由を伝えることも大切です。

参加するときは、始まる時間に遅れないように行きましょう。

(4) 保護者の仕事が休みの日の登園

幼稚園は、保護者が休みの日でも、登園日であれば登園することができます。

保育所や認定こども園でも、保護者の仕事が休みの日に子どもを通園させることはできませんが、仕事がある日の登園とは違いがあります。

・事前に連絡をする

仕事が休みの日に登園させるときは、仕事が休みであることを園に伝えます。どこかに出かける場合は、園に行く先を伝えてください。地震などの災害や子どもの体調が悪い時などに保護者に連絡する必要があるからです。

・延長保育の時間にはかからないようにする

保護者が休みの日の保育は短時間保育と同じで、1日8時間以内です。時間を守って利用してください。

(5)園への送り迎え

日本の園では、幼稚園は子どもをスクールバスで送迎するところが多いですが、保育所は保護者が送迎するのが一般的です。送迎のルールがあります。子どもの安全や園の円滑な運営のために、送迎のルールを守ってください。

・スクールバスで送迎する場合

バスに乗る場所まで、必ず保護者か家族の人が子どもを連れてきて、バスに乗るまで子どもと一緒にいてください。帰るときは、早めにバス停まで行き、子どもを迎えてください。

・保護者が送迎する場合

保護者か家族の人が子どもを保育所に送り迎えする責任があります。保護者は送迎する人を決めて、園に連絡しなければなりません。決められた人が送り迎えできない場合は、事前に園に連絡をしてください。連絡がない場合は、子どもの安全のために、子どもを引き渡すことができない場合もあります。

・駐車場の利用

保護者が子どもを車で送迎する場合は、園の駐車場に駐車してください。それ以外の場所に駐車すると多くの人の迷惑になり、園に苦情が来ます。駐車場の係員の指示に従い、順番に駐車してください。

・迎えの遅れ

子どもを迎える人が予定時間に遅れる場合は、事前に園に連絡し、状況を説明します。そうすると、園は、子どもが園で待っていることができるようにします。

(6)子どもや保護者の服装、持ち物など

子どもの制服や体操服など

園によっては、制服や体操服などを指定しているところがあります。その場合は、指定されたものを着用するようにしましょう。これは、同じ園の子どもが仲間意識を持つためのものです。また、制服を着ることで、子どもの服装代があまりかかりません。子どもの服装は、季節や天候に合わせたものにしましょう。

・子どもの着替え

園では、子どもが外遊びをしたり物を作ったりするとき、洋服が汚れることがあるため、毎日清潔な着替えを持っていかせてください。これにより、子どもは、濡れたり汚れたりしたときにすぐに着替えて、気持ちよく過ごせます。

・保護者の服装

一般的に、日本の園では、きちんとした、清潔感のある服装が好まれます。行事などがある場合は、そのような服装にすると無難です。いつも着る服装でもかまいません。ヒールの高い靴や運動しにくい服装は避けてください。

・個人の持ち物に名前を記入する

子どもの持ち物や衣類には、名前を書きましょう。これにより、ほかの子どもの物と間違えることが少なくなり、持ち物の管理がしやすくなります。また、保育に必要な個人のおもちゃなどは、園に持って来ないというルールがある園もあります。おもちゃのとりあいになったり、なくなったり、壊れたりすることを防ぐためです。

・室内用の履きものを持っていく

室内では室内用の履きものを履くことが一般的です。0歳、1歳の子どもたちは室内用の靴を履かないことが多いかもしれませんが、子どもたちがしっかりと歩くようになってからは室内用の靴を履きます。保護者も園に行くときは室内用の靴を持っていきましょう。これによって、園内の清潔が保たれます。

持ち物については、次の章で詳しく説明します。



4. 入園の準備

園に入園するまえに準備しておくことがあります。しっかり準備をしておく、子どもは安心して楽しく登園することができます。準備することは次の4つです。

1. 生活習慣を身につける
2. 園の説明会に参加する
3. 持ち物の準備をする
4. 子どもに登園を期待させる

(1) 生活習慣の確立

「食事」「睡眠」「排泄」「清潔」「衣服の着脱」などの「基本的な生活習慣」は、年齢に合わせて園でも指導します。しかしながら、これらの習慣を入園の前に身につけておくと、子どもは園生活に適応しやすくなります。

入園前に身につけておきたい習慣には次のようなものがあります。

- ・登園する1時間前には起きる習慣をつける（1歳～）
- ・できるだけ同じ時間に起きたり寝たりする（1歳～）
- ・規則正しい食事をする（1歳～）
- ・排泄や手洗い、うがいの習慣をつける（2歳～）
- ・挨拶ができるようにする（おはようございます、こんにちは、さようなら、ありがとう）（2歳～）
- ・自分で衣服を着たり脱いだりできる（3歳～）

(2) 園の説明会

入園説明会に参加しましょう

園では、入園希望者を対象にした説明会が行われます。説明会に参加して入園手続きの方法、保育料、施設の雰囲気、施設のプログラム、行事などを知り、保護者の考え方や子どもの個性にあった施設を選んでください。

- ・入園説明会は、家族の誰かが必ず参加してください。
- ・説明会の時に、園の規則、準備するものなどを確認してください。
- ・説明会に参加できないときは、園に連絡して訪問する日を決め、園の説明を聞くことができます。

もちもの じゆんび (3)持ち物の準備

園に入園する前に、必要な持ち物を準備しておきましょう。

- ・持ち物には必ず名前を書きましょう。または名前シールをはっておきましょう。
- ・布でできたものなどには、名札をつけておきましょう。

入園前に準備しておくもの

0歳児・1歳児
<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの園が指定する制服、カバン、帽子、リュックサック、体操服、スモッグ ・着替え一式(下着、シャツ、上着、ズボン、靴下、スタイ)2セット(保育中に濡らしたり、汚れたりするので、動きやすく、着替えやすく、汚れてもいいものを選んで、2セットは準備しておきましょう) ・着替えたものを入れる袋 ・上履き、上履き袋 ・手拭き用のハンドタオル(タオル掛けに引っ掛けるので、タオルの先にリングをつけてください) ・お昼寝のバスタオル2枚(下に敷くためのものと上に掛けるためのもの) ・食事用エプロン、スプーン、フォークのセット、コップ、コップ袋、お弁当箱、水筒 ・哺乳瓶と替えの飲み口、粉ミルク、離乳食(発達年齢にあったもの) ・オムツ(複数個)、おしりふき2個
2歳児・3歳児
<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの園が指定する制服、カバン、帽子、リュックサック、体操服、スモッグ ・着替え(下着、シャツ、上着、ズボン、靴下、スタイ)2セット ・着替えたものを入れる袋 ・上履き、上履き袋 ・手拭き用のハンドタオル(タオル掛けに引っ掛けるので、タオルの先にリングをつけてください) ・お昼寝のバスタオル2枚(下に敷くためのものと上に掛けるためのもの) ・食事用エプロン、スプーン、フォークのセット、コップ、コップ袋、お弁当箱、水筒 ・オムツ(複数個)、おしりふき2個 ・歯磨きセット、トイレトレーニングセット ・ハンカチ、ティッシュ ・お道具箱(クレヨン、絵具、色鉛筆、はさみ、のりを入れる)
4歳児・5歳児
<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの園が指定する制服、カバン、帽子、リュックサック、体操服、スモッグ

- ・着替え (下着、シャツ、上着、スボン、靴下、スタイ2セット)
- ・着替えたものを入れる袋
- ・上履き、上履き袋
- ・手拭き用のハンドタオル(タオル掛けに引っ掛けるので、タオルの先にリングをつけてください)
- ・お昼寝のバスタオル2枚(下に敷くためのものと上に掛けるためのもの)
- ・食事用エプロン、はし、コップ、コップ袋、お弁当箱、水筒
- ・歯磨きセット
- ・ハンカチ、ティッシュ
- ・お道具箱(クレヨン、絵具、色鉛筆、ふでばこ、ハサミ、のりを入れる)

(4)子どもに入園を期待させる

- ・子どもが園に行くことを期待し、入園が楽しみになるようにしましょう。
「園に行くのが楽しいことがいっぱいある」、「お友だちがたくさんいる」、「やさしい先生がいる」と子どもに話してあげましょう。
- ・お試し登園(慣らし保育)に参加しましょう。
お試し登園(慣らし保育)とは、子どもが新しい環境に慣れるために、一定の準備期間に少しずつ園に通うことです。
始めて園に預けられる子どもは、家族のもとを離れることに不安を感じます。お試し登園を経験することによって、子どもの不安は少しずつなくなります。
お試し登園を実施していないところもあるので、園に尋ねてください。



すいとう
水筒



すたい
スタイ



たいそうふく
体操服



すもつく
スモック

5. 心配なことがあるとき

子どもの入園で心配なことがあるときにはどのようにすればよいでしょうか？ 多くの外国籍の親が心配をする6つのことについて、どのようにするとよいかを説明します。

- (1) 子どもが園の生活になれることができないのではないかな
- (2) 園に行くことが疲れるのではないかな
- (3) 自分と先生との会話がうまくいかないのではないかな
- (4) 友だちとうまくやっていけるだろうか
- (5) 子どもが給食(日本食)を食べられないのではないかな
- (6) 子どもの母語はどうなるのか

(1) 子どもが園の生活になれることができないのでは

◎心配なこと

- ・園に行くのを、不安がったり嫌がったりする。
- ・園で、楽しそうにしていない。
- ・園で、他の子どもと遊ぶことができない。

◎どのようにするとよいか

・子どもと一緒に、園の保育室、園庭、遊具、トイレなどの場所や位置を確かめましょう。家でも、園の地図や写真を使って場所を確かめるとよいです。

場所がわかると、子どもの不安が少なくなります。

・子どもと一緒に、園で1日をどのように過ごすのか、時間の流れを確かめましょう。絵や矢印(→)を使った図を作ると子どもでもわかります。

3歳ぐらいになると、時間の流れを知ることで落ち着くことができます。

・子どもに、日本の園での活動や遊びが楽しいことを話しましょう。園で行う行事についても、親もいっしょに楽しみにしましょう。

親が楽しみにすると、子どもにも楽しい気持ちが伝わります。

・子どもが他の子どもといっしょに遊ぶ機会をつくりましょう。親も、他の親との会話や関わりを増やしましょう。

親同士の関わりが増えると、子ども同士も友達になります。

・園の活動や行事で、親が何かをする機会があれば参加しましょう。自分にできることがあれば、やってみるとよいです。

親が園で活躍する姿を見ると、子どもに元気がでます。

(2)子どもが慣れない園の生活に疲れるのでは

◎心配なこと

- ・なれない園生活に疲れるのでは
- ・朝なかなか起きない
- ・不安そうな顔をしている
- ・あまりご飯を食べない

◎どのようにするとよいか

(1)疲れ・不安・ストレスの原因を知りましょう

新しい場所、さらに外国での生活は、子どもを不安にさせます。生活習慣の違いや言葉の違いは、子どもだけでなく保護者にとっても、疲れ・不安・ストレスの原因となります。食事の方法や挨拶などの違いがあり、言われていることがよくわからない、自分の気持ちをうまく言葉で伝えられないなどもストレスになります。

(2)疲れ・不安・ストレスの兆候を感じ取りましょう

子どもが疲れや不安、ストレスを感じたら、次のような姿が見られます。

- ・園に行きたがらない。 ・すぐに怒ったり、泣いたり気持ち不安定になる。
- ・叫んだり、物を投げたり、友達に暴力的になったりする。
- ・保育室を出たり、激しく動き回ったり、ぼーっとしたり、寝転んだりする。
- ・食欲がなくなったり、お昼寝がなかなかできなかつたり、朝なかなか起きなかつたり、
- ・夜中にうなされたりする。
- ・いろいろな場面で、先生のそばを離れなかつたり、先生を避けたりする。

(3)園の先生に相談しましょう

子どもの疲れや不安、ストレスを感じたら、まず園の先生に相談してください。そうすると、先生は、子どもが理解できない言葉は絵や写真、身振りで伝える、子どもの母国語で話しかける、個別に説明する時間を作る、友達との関係を作るなどの対応をします。

(4)生活リズムを整えましょう

家庭でしなければならぬこともあります。一番大切なのは、規則正しい生活リズムで、「いつもどおり過ごす」こと、しっかりと睡眠をとることです。就寝時間を決め、その2時間前までに夕食や入浴を終え、スマートフォンやタブレット、PCなどは使わないようにし、暖色系の間接照明をつけて、静かな部屋で寝るようにします。

(5)疲れをいやす活動をししましょう

スキンシップの時間を増やすようにしましょう。家族と大好きな遊びをする、絵本を読んでもらう、絵を描く、好きなものを作る、外で遊ぶ、ペットと遊ぶ、野菜や花のお話をするなど子どもの疲れをいやします。

(3) 自分(保護者)と先生との会話がうまくいかないのでは

◎心配なこと

- ・先生が話すことがよくわからない。
- ・自分の話すことが先生に伝わらない。
- ・先生に子どものことを話すのが難しい。
- ・プリントや連絡に書かれている意味がよくわからない。

◎どのようにするとよいか

・自分がどのくらい日本語を理解できるのか、先生に伝えましょう。この時は、できるだけ通訳者や専門の人に助けてもらいましょう。

先生は、日本語の理解の程度に応じて、伝える工夫をしてくれます。

・園で利用できる通訳サービスや、スマートフォンの翻訳アプリを使いましょう。先生にも、翻訳アプリを使ってもらうように頼みましょう。

先生と一緒に翻訳アプリを使うことで、交流もできます。

・文字やことばといっしょに、イラスト・写真・実物を使って説明をしましょう。家での子どもの様子を伝える時は、動画を使うとよいかもかもしれません。

先生も、イラストや写真などを使って説明をします。

・園で、保護者用の連絡アプリを使っている場合は、母国語で使えるかを確認しましょう。母国語で使えない時は、使い方を母国語に翻訳してもらいましょう。

翻訳アプリといっしょに利用するとよいです。

・笑顔でのあいさつや簡単な会話をして、先生と接する機会を増やしましょう。先生にも、やさしい単語や短い文で話してもらいましょう。

先生と会話をするを楽しんでみましょう。

(4) 子どもが友だちとうまくやっていたらどうか

◎心配なこと

- ・友だちとうまくやっていたらどうか
- ・日本語ができなくても大丈夫だろうか
- ・外国籍の子どもはいじめを受けやすいのでは

◎どのようにするとよいか

○幼児は言葉の違いや肌の色の違いなどは気にしません。違うということはわかっても、そんなことは関係なく友だちになります。

幼児は、言葉や肌の色が違ってても、すぐに友達になります。

○子どもは環境に適応する力がとても大きいです。言葉がわからなくても、そんなことは関係なくいっしょに遊びます。外国籍の子どもは、そのなかでどんどん日本語を身に付けていきます。いつのまにか、日本語で自由に友達と話すようになります。

言葉ができなくても、子どもはすぐに友だちになります。

子どもはすぐに言葉をおぼえます。

○入園する前に、子どもが遊んでいる公園などに行き、同年齢の子どもとかかわる機会を作りましょう。簡単な日本語の絵本を使って、あいさつや物の名前を教えましょう。

入園する前に、同年齢の子どもとかかわる機会があると安心です。

○幼児の世界にも「いじめ」があります。幼児のいじめには、暴力を振るう、仲間外れにする、悪口を言う、物を隠すなどがあります。

先生や保護者のかかわりによって、いじめを防いだり、止めたりすることができます。

・いじめを受けているかどうかに気づいてあげましょう。いじめを受けている子どもの特徴には次のようなものがあります。

- ・園に行きたがらない。
- ・頭が痛い、おなかが痛いということが多い。
- ・いつも小さな傷がある
- ・洋服や持ち物に落書きをされている
- ・急に無口になったり、笑わなくなる
- ・食欲がなくなる
- ・寝つきが悪い、朝起きない
- ・持ち物がなくなっている
- ・指しゃぶりや爪かみが激しくなる
- ・園でのことを話したくない

いじめを受けていることに気づきましょう

・「友だちからいやなことをされているんじゃないの？」と尋ねても、子どもは本当のことを言わないかもしれません。一緒にお風呂に入ったり、絵本を読んであげているときなど子どもがリラックスしているときに、「今日はみんなでなにをした？」と尋ねると、子どもは本当のことを言いやすくなります。

いじめを受けている可能性を感じたらすぐに先生に話しましょう

・子どもの話や最近の子どもの様子から、いじめを受けていると感じたときは、先生に話しましょう。先生は、事実を確認し、いじめた子どもにいじめられた子どもの気持ちを理解させ、いじめを繰り返さないよう指導します。いじめた子どもの保護者に対しては面談を通して事実を報告し、施設の職員と協力しながら解決していきます。

子どもをリラックスさせてあげましょう

・家庭では、「子どもの疲れ、不安、ストレス」のところで述べたような、スキンシップの時間を増やし、絵本を読んであげたり、子どもと一緒に遊んであげたりして、子どもの心を癒してあげましょう。

(5) 子どもが給食を食べることができないのでは

◎心配なこと

- ・アレルギーのために食べることができないものがある
- ・宗教的な理由で食べることができないものがある
- ・日本の料理や味になかなか慣れてくれない

◎どのようにするとよいか

園の栄養士の先生と担任の先生に、食べることができない料理や食材を伝えましょう。食べることができない調味料も伝えましょう。

調味料に何が含まれているかも必ず尋ねましょう。

○給食の予定表で、食べることのできない料理や食材を確認しましょう。料理や食材についてわからないことは、栄養士の先生に尋ねましょう。

料理の名前からは、使われている食材がわからないことがあります。

○食べることのできない料理や食材がある場合、園でそれらを含まない給食を準備できるか尋ねましょう。園で準備ができない場合は、お弁当をもたせましょう。

その日の給食に似ているお弁当であるとよいです。

○はじめは給食の量を減らしてもらい、食べれるようになれば、少しずつ量を増やしてもらいましょう。食べることができたらほめるようにしましょう。

子どもは、全部食べたことに喜びを感じます。

○家での食事に、日本の料理や食材を取り入れてみましょう。子どもと一緒に異なる食べ物を楽しみ、興味をもたせるようにしましょう。

自分の国の料理と似ているところや違うところについて、話すともよいです。

(6) 子どもの母語はどうなるのか

◎心配なこと

- ・親は母語ではなく日本語で話すほうがよいのか
- ・子どもが母語を忘れてしまうのではないか
- ・どちらのことばも不十分になるのではないか

◎どのようにすればよいか

親が無理に日本語で話そうとするよりも、母語で楽しく話しましょう。日本語で話す時も、子どもとの会話を楽しみましょう。

会話の楽しさが子どもに伝わることが大切です。

○家では子どもに日本語を教えなくても大丈夫です。子どもは、園での生活や遊びのなか

で、日本語を憶えていきます。

乳幼児期の子どもはことばを覚えるのがとても早いです。

○家ではできるだけ母語で話す機会を増やしましょう。子どもに母語が身についていると、日本語もうまくなります。

子どもは相手によって母語と日本語を使い分けるようになります。

○母語や母国の文化に親しみ、興味をもたせましょう。母語の絵本を読み聞かせたり、母語の歌を教えるとよいです。

園で過ごす時間が長くなると、母語に親しむ機会が減ります。

○母国の人が集まる会や催しがあれば参加しましょう。子どもが母語や母国の文化に触れる機会をつくりましょう。

母国と日本の両方のことばや文化がよくわかるようになります。

これ以外にも心配なことがあるときは、いつでも園の先生に相談してください。



6. 外国籍保護者の疑問・不満・要望

習慣や文化、価値観の違いから、保育にもそれぞれの国のやり方があります。そのため、保育のやり方や施設・設備、ルールなどに疑問や不満を感じることもあると思います。

外国籍の保護者が感じる疑問や不満、要望には次のようなものがあります。

外国籍保護者が疑問を持つこと、不満を感じること

- ・保育時間が短い、休みが多すぎる
- ・園のルールについて事前の説明がない
- ・保育行事に疑問がある
- ・先生の言葉がわからない
- ・給食の味が薄い、食材が大きく切っている
- ・制服になじめない
- ・保護者会などで服装に気をつかう
- ・先生は子どもの世話をしすぎる

外国籍保護者の要望

- ・保護者と話すとき、翻訳アプリを使ってほしい
- ・日本人保護者との交流の機会を設けてほしい
- ・子どもに日本語の読み書きを教えてほしい
- ・子どもに朝食を出してほしい
- ・車で送り迎えをしてほしい
- ・子どもの様子が見られるカメラを設置してほしい
- ・先生方は多文化理解をしてほしい

外国籍保護者ができるだけ日本の園の事情を理解し、納得して子どもを通園させていただくために、疑問や不満、保護者からの要望についてひとつひとつ説明します。

☆外国籍保護者の疑問や不満に答えます

保育時間が短い・休みが多すぎる

保育時間や休みが多いことに対する不満は、幼稚園に通園させている保護者に多いようです。幼稚園はもともと教育だけをする施設で、午前9時ごろ登園し、午後2時から3時までには終わるのが普通です。いまでは、多くの幼稚園では、保護者が働いていても通園できるように、保育が終わってから「預かり保育」を行っています。夏休みや冬休みでも「預かり保育」はあります。「預かり保育」は午後6時までのところが多いです。公立の幼稚園では、「預かり保育」がないところがあります。

定期的に仕事をしている人は、保育所か認定こども園を選んでください。保育所と認定こども園では1日11時間まで預けることができます。夏休みや冬休みはありません。ほとんどの人は仕事の時間を十分にとることができます。しかしながら、夜間に仕事がある人は、これらの施設に子どもを預けることができません。その場合には、夜間保育所かベビーホテルに預けることになります。

- ・仕事を持っている人が幼稚園を選ぶ場合は、預かり保育があるかどうか、何時まで利用できるか確認しましょう
- ・夜働く人は、近くに夜間保育所があるかどうか確認しましょう。夜間保育所がない場合は、託児所(ベビーホテル)を利用することになります。

園のルールについて、事前の説明がない

日本には独自の文化や価値観があり、外国籍の保護者は、園にはどのようなルールがあるのか心配になります。

外国籍幼児の受け入れ経験を持つ園も多くなり、外国籍の保護者に説明しなければならぬことがわかるようになってきました。外国籍の保護者の方は、子どもを入園させたい施設が決まったら、子どもが入園する前に園を訪問し、園のルールの説明を聞いてください。わからないことや納得できないことがあれば、質問したり、要望を伝えてください。日本の施設も、外国の習慣や価値観をできるだけ受け入れようという思いを持っています。

- ・事前に施設を訪問して、説明を聞いてください。
- ・わからないこと、納得できないことは、施設の職員と話してください。

保育行事に疑問がある

保育行事は、日本の保育文化の一つであり、子どもにとってもいつまでも心に残る楽しい活動です。外国籍の保護者が疑問を持つのは、クリスマス会などの宗教が関係する行事

のようです。このため、神社やお寺などに遠足に行くなどにも疑問を感じます。

日本では、これらの活動は宗教活動ではありません。たとえばクリスマス会でお祈りをしたり賛美歌を歌ったりすることはありません。しかしながら、外国籍の保護者は、このような行事は行ってほしくないと思う人がいるのは理解できます。園でもこのことへの理解が深まり、多くの園でクリスマス会をやめたり、会の名前を変えるようになりました。

日本には、キリスト教系や仏教系の園があります。そのような園では宗教的な行事があります。

- ・日本では、普通の園では、クリスマス会などの保育行事で宗教的な活動は行いません
- ・宗教系の園かどうかを調べて、園を決めてください。

先生の言葉がわからない

先生との会話は、日本語で、あるいは日本語と英語両方を使って行うという保護者が多いようです。英語以外の外国語は、日本の保育施設ではほとんど通じません。最近では、翻訳アプリを使う施設が多くなってきました。保護者も、翻訳アプリが使えるようになってください。施設の職員にも、翻訳アプリを使うように要望してください。

- ・先生との会話は、翻訳アプリを活用しましょう。

給食の味が薄い、食材が大きく切っている

日本の食文化の特徴として、色がきれい、薄味が多い、食材を大きめにカットするというのがあります。薄味が多いのは、食材の味をできるだけ活かしたいからです。食材を大きめにカットするのは食材の美しさを残したいからだと考えられています。

給食の味が薄いのはほかにも理由があります。食塩のとりすぎを防ぐためです。子どものときに食塩を多くとった子どもは、大人になっても食塩を多くとり、それが成人病の原因になります。大きめにカットされた食材を食べると、噛む力が強くなります。このような理由を理解してください。

- ・子どもは、味や食材の大きさにすぐ慣れます。



制服になじめない

日本の園では、子どもの服装は基本的に自由ですが、園の決めた制服を着ることをルールとしている園があります。制服は、子どもが着ていく服を考えなくてよい、服装のお金がかからない、友達と仲間意識が持てるなど、いいところがたくさんあります。制服の良さを知ってください。どうしても制服を着せたくないという保護者は、園に相談してください。
・制服の良さを見直してみてください



保護者会などで服装に気を遣う

日本の保護者のなかには、保護者会などで服装に気をつかい、立派な服を着てくる人もいるかもしれません。一般的に、日本の園では、きちんとした、清潔感のある服装が好まれます。とくに、入園式や卒園式ではきちんとした服を着る習慣があります。

でも、保護者会などは気軽に参加するものです。服装には気をつかわず、いつも着るような服で参加してください。

・園に行くとき、行事に参加するときは気軽に服装で出かけてください

先生は子どもの世話をしすぎる

日本の先生は、子どもとのスキンシップを大切に、子どもからの働きかけにはできるだけ応えるようにします。子どもがどうしてもできないときは、ていねいに手伝います。このあたりが「世話をしすぎる」ように見えるのかもしれません。

その一方で、子どもの主体性を大切にしています。主体性とは「自分でできることは自分で」、「自分で考えて決める」ことです。先生は、子どもができなくてもすぐ助けてあげるのではなく、時間がかかっても子どもが自分できるようにし、どうしてもできないときだけ手伝ってあげます。子どもからなにか聞かれたら、いきなり答えを教えるのではなく、「なんだろう?」「どうしてだろう?」と子どもに問いかけ、子どもが自分で気づいたり考えたりするようにします。

なかには世話をしすぎる先生がいるかもしれませんが、日本の保育は子どもの主体性を大切にしていることを理解してください。

・日本では子どもの主体的活動を大切にしています。

・その一方で、スキンシップを大切に、子どもからの働きかけにはできるだけ対応します

☆保護者からの要望に対して説明します

日本人の保護者と交流の機会を設けてほしい

日本人の保護者と外国籍の保護者との交流は、お互いの考え方や価値観、習慣を理解するためにもとても大切です。交流が深まれば、外国籍の保護者は、日本人の保護者から、日本での生活に関する情報を得ることもできるでしょう。園は、交流の機会を作ります。外国籍の保護者は、日本人の保護者に積極的に話しかけてください。

子どもに日本語の読み書きを教えてほしい

日本の園では、日本人の子どもに対しても、簡単なひらがなの読み書き程度の指導しか行いません。外国籍の子どもも、園で生活しているうちに、ひらがなの読み書きができるようになります。小学校では、外国籍の子どもを対象にした特別な日本語指導をしていますが、これは日本語ができないと学習についていけないからです。しかし、幼児期は日本語ができなくても大丈夫です。子どもは、生活の中で、必要な日本語をあっというまに身につけていきます。

子どもに朝食をだしてほしい

朝は出勤で忙しく、朝食を作る時間がないという保護者もいるかもしれません。中国では、幼稚園で朝食と夕食を出すところも多いようです。日本では、保育に使うお金は、何にどれだけ使うかが細かく決められており、朝食の費用はその中に入っていないので、朝食を出すことはできません。朝食と夕食は、できるだけ家族みんなで一緒に食べてほしいと思います。朝食と夕食の時間は、保育所や認定子ども園で長い時間保育を受けている子どもにとって、家族と一っしょに過ごし、語り合う大切な時間だからです。

車で送り迎えをしてほしい

日本では、私立の幼稚園は、スクールバスで子どもを送迎（有料）しているところが多いですが、公立の幼稚園で子どもを送迎しているところはほとんどありません。また、保育所および認定子ども園で子どもをバスで送迎しているところは少ないです。スクールバスには先生が必ず乗ります。

保育所でバス送迎が少ないのは、保育所は近くの子どものみを対象としていること、保護者が送迎するのが原則であること、先生の負担が大きいことなどが主な理由です。

子どもの様子が見られるカメラを設置してほしい

子どもの様子がウェブカメラで確認できるのは保護者にとっては安心ですし、先生と子どもやりとりも見るすることができます。

ウェブカメラは確かに便利ですが、一方でプライバシーの問題があります。現在、多くの保育施設では、リアルタイムではなくても子どもの写真や動画が見られるアプリを取り入れています。また、日本では先生と保護者が子どもの様子を伝えあう連絡帳があります。これで、保育施設での子どもの様子がかかなりわかります。

先生方は多文化理解をしてほしい

先生の多文化理解はとても大切なことです。保護者の母国の文化、価値観、生活習慣と共に、幼児教育と保育の特徴も理解しておく必要があります。それだけでなく、園や先生は、「多文化共生」という考え方をすることも必要です。多文化共生とは、自分の国とは異なる文化や価値観を受け入れ、お互いが納得できるような園生活を作り出すことです。このような理解を進めるための研修を取り入れていきたいとおもいます。現在、日本では、幼稚園や保育所、認定こども園の先生を養成する養成校で、多文化理解の授業を行うようになってきました。外国籍の保護者も、多文化共生を理解してください。

引用文献・参考文献

- ・文部科学省「幼稚園教育要領」、フレーベル館、2017
- ・厚生労働省「保育所保育指針」、フレーベル館、2017
- ・文部科学省「外国人幼児等の受入れにおける配慮について」2020
- ・三菱UFJリサーチアンドコンサルティング「保育所等における外国籍等の子ども・保護者への対応に関する調査研究事業報告書」、2020
- ・和田上貴昭他「外国にルーツをもつ子どもの保育に関する研究」、保育科学研究、第8巻、2017
- ・田中敏明、高木富士男「幼稚園・保育所に在籍する外国籍幼児の受け入れと保護者対応の状況」、九州女子大学学術情報センター研究紀要、第3巻、2020
- ・田中敏明、川俣美砂子、杉村智子、矢野洋子、古野愛子、今津尚子「日本の保育施設における外国籍幼児の保護者支援—日本の保育施設に対する意識と要望—」、豊岡短期大学論集、第20号、2024年3月刊行予定

Table of contents

Introduction	33
1. Types and characteristics of early childhood education and childcare facilities in Japan	34
Types of early childhood education and childcare facilities and their characteristics	
Conditions for admission, childcare hours, holidays, childcare period	
Childcare fees and other expenses	
Childcare content and method	
Childcare events	
Good points about childcare and education in Japan	
2. Procedures for admission	45
Consultation regarding admission	
Procedures for admission to kindergartens, daycare centers, and certified childcare centers	
How to use temporary storage	
3. General rules for childcare facilities in Japan	48
Observance of time Make sure to contact the childcare facility	
Going to kindergarten on days when parents have a day off	
Pick-up and drop-off of children Clothes, belongings	
4. Preparation for admission	51
Establishment of lifestyle habits	
Trial admission	
Preparing things to bring to the childcare facility	
Make children look forward to going to childcare facility	
5. When you have something to worry about	54
Adaptation to facility life	
Children's fatigue, anxiety, and stress	
Communication with the teacher	
Relationship with friends	
School lunch	
Children's mother tongue	
6. Questions, complaints, and requests from foreign parents	59
Frequently asked questions, complaints, and requests	
Answers to questions, complaints, and requests	

Introduction

Currently, in Japan's early childhood education and childcare facilities, many children of foreign nationalities are receiving daycare. It is predicted that the number of children of foreign nationalities will increase in the future.

In our survey we found that parents' evaluations of the early childhood education and childcare facilities are very high. We feel very happy.

On the other hand, many parents seem to find it difficult to go through the procedures for enrolling their child in a daycare facility.

Due to differences in values, some parents have doubts or are dissatisfied with the methods used, content for early childhood education and childcare facilities

We have created this guide to help foreign parents understand Japanese childcare, and provide childcare facilities for their children with peace of mind. you get started.

We want everyone's children to have a comfortable life in Japan's early childhood education and childcare facilities.

We want everyone's children to have a comfortable life in Japan's early childhood education and childcare facilities and to grow properly.

We hope that the children's life at the facility will be a happy memory of Japan.

Group that creates a guide for admission to childcare facilities and nursery school life in Japan.

Authors

Toshiaki Tanaka

Misako Kawamata

Tomoko Sugimura

Yoko Yano

Aiko Kono

Shoko Imazu

1. Characteristics of Japanese childcare facilities

In Japan, there are three types of early childhood education and childcare facilities. Three types of facilities are kindergartens, nursery schools and certified nursery schools.

Kindergarten is a place where education is mainly carried out, and childcare hours range from 4 to 6 hours.

A nursery school is a facility for parents who are unable to care for their children due to work or school. Childcare hours are long, ranging from 8 to 11 hours.

A certified nursery school has the functions of both a kindergarten and a nursery school.

Depending on the circumstances of the guardian, one has to choose one from three types of early childhood education and childcare facilities.

We will introduce each facility.

① Type of childcare facility

Kindergarten

Features	This is a place where early childhood education is provided for children aged 3 and over.
Conditions for admission	There are no conditions.
Childcare hours	4 hours to 6 hours. The private kindergarten is open from around 9:00 a.m. to around 3:00 p.m. The public kindergarten is open until around 2:00 pm on the 2nd to 3rd days of the week. On other days, childcare will be available in the morning.
Childcare day	Monday to Friday (closed on Saturday and Holidays) There are summer vacations, winter vacations, and spring vacations. Kindergarten also looks after children on Saturdays, summer vacation, winter vacation, and spring vacation.
Childcare	For working parents, there is childcare available. After

service	<p>childcare hours are over, we some teacher keep your child until around 6pm in the kindergarten.</p> <p>Some kindergartens do not provide such childcare. Service.</p>
Childcare fee	<p>3 years old and older</p> <p>In principle, admission is free, but some kindergartens may require a monthly fee of 5,000 to 10,000 yen.</p> <p>2 year old child</p> <p>25,000 yen to 40,000 yen per month</p> <p>In addition to this, there is also an admission fee (30,000 yen to 80,000 yen) and an annual facility fee of 20,000 to 30,000 yen.</p> <p>Please check with the kindergarten where you wish to enroll your child for childcare fees.</p>

Nursery school

Features	<p>This is a place that provides education and care for children between the ages of 0 and 6.</p>
Conditions for admission	<p>There are conditions for admission, such as parents working.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Due to the parents' work, there is no one to take care of the child during the day (The condition is that you have been working for at least 64 hours a month). • Pregnancy and childbirth (2 months before and after the expected date of birth). • Nursing for a relative who lives with you or is hospitalized for a long period of time. • Going to a vocational training school or university for the purpose of getting a job after graduation.
Childcare hours	<ul style="list-style-type: none"> • Nursery school hours are 7:00 a.m. or 7:30 a.m. to 6:00 p.m. or 7:00 p.m. • Childcare is available for 11 hours a day (Childcare standard hours) or 8 hours a day(Childcare short time). If the parent's working hours are 120 hours or more per month, it is considered ``standard childcare hours''. If it is less than hours, it will be considered ``childcare short time''.
Childcare day	<ul style="list-style-type: none"> • Monday to Saturday (closed on Sundays and holidays). • Closed at the end of the year and beginning of the

	year.(December 29th ~ January 3rd)
Childcare service	<ul style="list-style-type: none"> • If you work for more than 8 hours or 11 hours a day due to work commitments, there is extended childcare for one hour or two hours.
Childcare fee	<ul style="list-style-type: none"> • Children over 3 years old <p>Childcare is free regardless of the length of time you receive childcare.</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0-year-old to 2-year-old <p>It varies depending on the parent's income and where they live. (0 yen to 70,000 yen)</p>

Certified nursery school

The certified nursery school is for children receiving kindergarten education or nursery school childcare. This facility accepts three types of children:

- ①Children who are 3 years old or older and receive kindergarten education : Category 1 certification
- ②Children who are over 3 years old and receive childcare: Category 2 certification
- ③Children under the age of 3 and receive childcare: Category 3 certification

Regional childcare services

This is a small nursery school established with the aim of caring for children aged 0 to 2. This facility provides childcare for a small number of children. There are four types.

- ①Home-style childcare : In a homely atmosphere, This facility offers a variety of carefully prepared meals for small groups (capacity: 5 people or less).
- ②Small scale childcare : This is a nursery school that operates with a small number of children(a capacity of 6 to 19)
- ③On-site childcare center: This is a nursery school that is set up within a business office and operated by a company. Children from the local area are also accepted.
- ④Home-visit childcare : A childcare worker visits the home of a child with a disability or illness, and provides one-on-one support at the home.

☆The application procedures for these facilities are roughly the same as for nursery school.

Temporary childcare

Even if you do not attend a kindergarten, nursery school, or certified children's kindergarten, you can temporarily leave your child at a nursery school or certified children's center. It can be entrusted for any reason, such as illness or injury of a guardian, accident, childbirth, business trip, nursing of a family member, ceremonial ceremonies, refreshment of mind and body, participation in hobbies or volunteer activities.

It is available in increments of a few hours. The fee varies depending on the time of deposit, but it is about 3,000 yen per day. Reservations are required.



② Methods and contents of education and care

In Japan, there are government's rules regarding the content and methods of childcare. The government's rules require childcare to be carried out with the following things in mind.

Methods

1. Education through their environment
2. Encouraging children to undertake voluntary activities
3. Developmentally appropriate education and care
4. Achieving the overall aim through play
5. Valuing the individuality of each child

Aims and content by area

The educational aims are divided into five areas and the aims and contents are presented.

Health

(Developing a healthy physical and mental, and fostering children's abilities to independently maintain a healthy and safe life.)

1. Aims

- (1) To act lively and freely and to experience a sense of fulfillment.
- (2) To fully move the body and to exercise willingly.
- (3) To acquire the habits and attitudes necessary for a healthy and safe life.

2. Content

- (1) Communicating with teachers and friends, and acting with a sense of stability.
- (2) Moving the body fully through various kinds of play.
- (3) Playing outdoors willingly.
- (4) Becoming familiar with various activities and engaging with joy.
- (5) Enjoying eating with teachers and friends.
- (6) Acquiring a healthy pattern of life.
- (7) Maintaining cleanliness and becoming self-sufficient in essential activities, such as changing clothes, eating, and using the bathroom.
- (8) Understanding the way of life in kindergarten, and understanding the consequences of their actions, while organizing the kindergarten living space without adult assistance.

- (9) Acquiring a sense of curiosity about one's health and willingly carrying out activities necessary to prevent illness.
- (10) Understanding where danger lies, what dangerous play is, and how to act in case of disaster, and taking action with regard to safety.

Human Relationship

(Developing self-reliance and fostering the ability to communicate with others in order to associate with and support each other..)

1. Aims

- (1) To enjoy kindergarten life and to experience a sense of fulfillment in acting by oneself.
- (2) To become familiar with and deepen relationships with others they are close to, and to develop affection and trust.
- (3) To acquire socially desirable habits and attitudes.

2. Content

- (1) Experiencing the enjoyment of spending time with teachers and friends.
- (2) Thinking and acting independently.
- (3) Doing things for themselves as far as possible.
- (4) Having the willingness to accomplish things by enjoying various play activities.
- (5) Sharing enjoyment and sadness through active involvement in relationships with friends.
- (6) Sharing thoughts with friends and understanding what friends are thinking.
- (7) Understanding friends' strengths and experiencing the enjoyment of doing things together.
- (8) Identifying common purposes, coming up with creative approaches, and cooperating while engaging in enjoyable activities with friends.
- (9) Understanding the difference between good and bad, and applying this to actions.
- (10) Deepening relationships with and being compassionate toward friends.
- (11) Understanding the importance of rules and observing them to lead an enjoyable life with friends.
- (12) Taking care of common play equipment and apparatus, and sharing them with everyone.
- (13) Becoming familiar with various people who are deeply involved in their lives, such as the elderly and others in the community.

Environment

(Fostering children's abilities to relate to the environment with curiosity and inquisition, and to incorporate this into their daily life.)

1. Aims

- (1) To develop interest in and curiosity about various kinds of things and experiences around them through a sense of familiarity with their surrounding environment and

contact with nature.

- (2) To initiate interaction with their surrounding environment, and to enjoy making and discovering new things and incorporating them into their lives.
- (3) To enrich children's understanding of the nature of things, the concepts of quantities, written words, etc. through observing, thinking about and dealing with surrounding things and experiences.

2. Content

- (1) Leading a life close to nature, being aware of its grandeur, beauty and wonder.
- (2) Being in contact with various things in their lives and developing an interest in and curiosity about their nature and organization.
- (3) Being aware of changes in nature and in people's lives in accordance with the seasons.
- (4) Developing and incorporating an interest in things surrounding them, such as nature.
- (5) Acknowledging the importance of life, and appreciating and respecting it by becoming familiar with animals and plants living in the surrounding area.
- (6) Becoming familiar with the various cultures and traditions of Japan and local communities.
- (7) Treating their surroundings with care.
- (8) Developing an interest in surrounding things and play equipment, and thinking about creative ways to make the best use of them.
- (9) Developing curiosity about the concepts of quantities and diagrams in everyday life.
- (10) Developing curiosity about simple signs and written words in everyday life.
- (11) Developing curiosity about the information and facilities that play an important role in their lives.
- (12) Being familiar with the national flag and all its functions inside and outside the kindergarten.

Language

(Developing the will and attitude to verbally express experiences and thoughts in one's own words, as well as to listen to others' spoken words, and fostering an understanding of language and skills of expression.)

1. Aims

- (1) To experience the enjoyment of expressing personal feelings in their own words.
- (2) To listen closely to other people, to verbalize experiences and thoughts, and to enjoy communicating.
- (3) To have a grasp of the language necessary for everyday life, to be familiar with picture books and stories, and to communicate feelings with teachers and friends.

2. Content

- (1) Developing an interest in and curiosity about what teachers and friends have to say, and listening and speaking in a friendly manner themselves.

- (2) Expressing in their own words what they are doing, seeing, hearing, feeling, thinking.
- (3) Expressing verbally what they want or want someone to do, and asking for clarification when they do not understand.
- (4) Paying attention to what people are saying, ensuring that they make themselves understood to their conversation partner.
- (5) Understanding and using words essential to everyday life.
- (6) Greeting people in a friendly manner.
- (7) Recognizing the enjoyment and beauty of language in daily life.
- (8) Enriching images and language through various experiences.
- (9) Being familiar with picture books and stories, listening with interest, enjoying using their imagination.
- (10) Experiencing the enjoyment of conveying thoughts and feelings in writing in everyday life.

Expression

(Developing rich feelings and the ability to express oneself, and enhancing creativity by expressing experiences and thoughts in their own words.)

1. Aims

- (1) To develop a deep sense of the beauty and other qualities of various things.
- (2) To enjoy expressing feelings and thoughts in their own way
- (3) To enjoy various ways of self-expression throughout the day using rich imagery.

2. Content

- (1) Enjoying recognizing and feeling various sounds, colors, forms, textures, and movements throughout the day.
- (2) Coming into contact with beauty and things that move people emotionally, and creating rich images.
- (3) Enjoying communicating emotional responses to various events.
- (4) Expressing feelings and thoughts using media such as sound and movement, drawing, painting, and free expression.
- (5) Being familiar with various materials and making use of them creatively in play.
- (6) Being familiar with music, and enjoying singing, using simple rhythmical instruments, etc.
- (7) Enjoying drawing, painting, and creating things, and using them for play, as decorations, etc.
- (8) Enjoying expressing, performing, and playing with their own images through words and movement.

In addition to education, nursery schools and certified children's centers also provide care. The aims and contents of care are shown in the following table.

Details of care at nursery schools and certified children’s centers

<p>Preservation of life</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① Accurately grasp the normal state of health, development, and development of each child. If an abnormality is detected, respond promptly and appropriately. ② While collaborating with families and part-time doctors, deepen knowledges of the prevention of diseases and accidents in children. Striving to maintain and improve a healthy and safe childcare environment. ③ Creating a clean and safe environment, and satisfying the physiological needs of children through appropriate assistance and responsive interaction. Creating an appropriate rhythm of life according to the developmental process of the child in cooperation with the family. ④ Depending on the child's developmental process, etc., let them get moderate exercise and rest. We will provide appropriate assistance to children so that they can live a motivated life with respect to eating, excretion, putting on and taking off clothes, and cleaning their bodies.
<p>Emotional stability</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① Accurately grasp the state and developmental process of each child. While appropriately satisfying the needs of the children, we will Responding to each other's touches and words while appropriately satisfying the needs of the children. ② Building a continuous relationship of trust with each child while accepting and empathizing with the feelings of each child. ③ Based on a trusting relationship with nursery teachers, each child is encouraged to take the initiative in the process of growing up so that they can have confidence in themselves, as well as a willingness to explore and be self-motivated. Watching over them and working appropriately. ④ Depending on the rhythm of each child's life, the developmental process, the time of childcare, etc., trying to balance and harmonize the activities and content so that appropriate meals and rest can be taken.

③ Events at Childcare Facilities

Childcare facilities in Japan hold various seasonal events and traditional events. Events are very fun and remain in the hearts even after they are older. We will introduce the main events.

Name of the event	Dates	Details of the event
Birthday party	1 time per month	Children sing songs and play games to celebrate the children of the birth month. Children present birth day cards and handprint cards made by the children.
Picnic	May or October	Bring lunch and go to the park, mountain, sea, zoo, etc. The lunch that everyone eats together outside are very delicious.
Tanabata	July	Children listen to the story of "Tanabata" that has been handed down from ancient times in Japan. They write their wishes on a strip of paper and decorate it on a bamboo shoot.
Respect for the Aged Day	September	Invite the elderly people in the neighborhood. They sing songs together, make music, and learn about old games and traditions, and deepen their interaction with the elderly.
Sports Day	June or October	In addition to participating in competitions such as sprint races and ball entry, group performances of each grade are also performed. Families also visit and eat lunch with their children.
New Year's Day	December ~ January	Children make rice cakes to welcome the new year. On New Year's Day, they play New Year's games such as splashing feathers, flying kites, and karuta game.
Setsubun	February	While saying, "ogre is outside" and "happiness is inside," children throw beans. It is an event to rejoice in the coming of spring and pray for everyone's happiness.
Recital	Mostly in February	Inviting parents, children exhibit various works made by the children, songs and plays. .

Graduation ceremony	March	It is the day when children graduate with many memories. The teachers are moved by the fact that the children have grown up so far, and send them out one by one.
---------------------	-------	---

④ Good points of early childhood education and childcare facilities in Japan

According to the survey, 90% of the guardians of foreign nationalities who used early childhood education and childcare facilities in Japan feel that the early childhood education and childcare facilities in Japan are "very good".

The following points are what guardians of foreign nationalities feel are "especially good".

Good points of early childhood education and childcare facilities in Japan

- Childcare staff are kind
- There is a lot of contact with nature.
- The school lunch is delicious
- Teaching you to study
- Letting children play freely
- Children feel comfortable living in a childcare facility.
- Childcare fees are low



2. Procedures for admission

For guardian of foreign nationalities, the procedure for admission to a childcare facility is complicated. In particular, it is difficult to complete the procedures for admission to nursery schools and certified children's centers. If you are not sure, please inquire at the childcare facility you want to enter or the municipal office where you live. We think that if you can ask the guardians of foreign nationalities who have experience in admitting their children, you will understand.

We will explain the admission procedure for each type of childcare facility.

Kindergarten

There are public kindergartens and private kindergartens, and there are differences in the procedures.

【Public kindergarten】

- ◆ Qualifications for admission: 3-year-olds ~ 5-year-olds living in municipalities where kindergartens are located
- ◆ Period of application: It varies depending on the municipality. There are many places from November 1st to 10 days. There is no allowance on Saturdays and Sundays
- ◆ Documents to be submitted: Admission application form and application for certification of education/childcare benefits
- ◆ Place to submit the application for admission: Kindergarten where you wish to enroll.
- ◆ Place of distribution of application forms, etc.: Kindergarten where you wish to enter
- ◆ Interview and briefing session: After submitting the application for admission, there will be an interview and a briefing session at the kindergarten where you wish to be admitted. Please participate with your parents and children.

【Private kindergarten】

- ◆ Qualifications for admission: 3-year-olds ~ 5-year-olds who wish to enter the kindergarten. There is a place where it can be accepted from a two-year-olds.
- ◆ Reception period: There are many places that accept applications in November, but many private kindergartens are available at any time when there is a vacancy in capacity.
- ◆ Documents to be submitted: Admission application form and application for certification of education/childcare benefits
- ◆ Place to submit the application for admission: Kindergarten where you wish to enroll.
- ◆ Place of distribution of application forms, etc.: Kindergarten where you wish to enter
- ◆ Interview and briefing session: After submitting the application for admission, there will be an interview and a briefing session at the kindergarten where you wish to be admitted. Please participate with your parents and children.

Nursery school

There are public and private nursery schools, but the procedures are the same for both. The procedure for admission to a nursery school is as follows.

• Visiting the nursery school where you want to enroll your child ➡ • Prior consultation with the childcare section of the city hall of the municipality where you live ➡ • Confirm the admission qualifications ➡ • Preparation of documents ➡ • Application for admission to the nursery school ➡ • Receive information about whether or not your children can enter a nursery school.

Visiting the nursery school where you wish to enroll

A visit to a nursery school is not mandatory, but it is safe to see with your own eyes what kind of nursery school it is. The tour will be submitted directly to the nursery school.

Prior consultation with the municipal office childcare section of the municipality

We will consult directly with the person in charge of the municipality. You had better ask what kind of daycare centers are available, whether your child can enter the nursery school, the procedures for admission, the types of childcare you need, the childcare fees, etc.

Confirm the admission qualifications

As we have already explained, if guardian fit any of the following, you can enroll your child in a nursery school.

- Due to the parents' work, there is no one to take care of the child during the day (.The condition is that you have been working for at least 60 hours a month).
- Pregnancy and childbirth (2 months before and after the expected date of birth).
- Nursing for a relative who lives with you or is hospitalized for a long period of time.
- Going to a vocational training school or university for the purpose of getting a job after graduation.

Preparation of documents

[Documents to be submitted to all applicants]

- [Admission application form](#)
- [Application for certification of education/childcare benefits](#)
- Confirmation of the child's status
- Documents confirming the need for childcare (employment certificate, medical certificate, certificate of enrollment, etc.)
- If you are a foreign citizen and do not have permanent residency, you must copy both sides of your residence card.
- Other documents may be required

Submission of application documents

If your child enters the nursery school on the 1st of April, you will need to apply from October to November of the previous year.

Submit the application documents by mail or directly to the office in charge of the municipality.

Certified nursery school

The certified nursery school is for children receiving kindergarten education or nursery school childcare. This facility accepts three types of children:

Children who are 3 years old or older and receive kindergarten education : Category 1 certification.

Children who are over 3 years old and receive childcare: Category 2 certification

Children under the age of 3 and receive childcare: Category 3 certification

- For children certified category 1, the procedures are the same as those for kindergarten.
- For children certified category 2 and category 3, the procedures are the same as those for nursery school.

How to use temporary childcare

- Check to see if there is a facility nearby that offers temporary childcare.
You can check the list of childcare facilities that provide temporary childcare at the local government office or on the website.
- Register with the childcare facility you want to use.
- If you are going to use the facility for the first time, you will need to meet with the staff of the facility to confirm the status of the children and submit the registration documents.
- Make a reservation for use.
Advance reservations are required. Please make a reservation by telling the date and time you would like to use it.
- There are restrictions on the time and number of days of use.
- Temporary childcare is only temporary childcare, so there is an upper limit on the number of days of use and the number of hours of use per day.
- Prices vary depending on the facility. 500 yen to 600 yen for 1 hour, 2000 yen to 5000 yen for 1 day. It depends on the time you leave your child.

3. General rules for childcare facilities in Japan

There are rules that guardians are required to follow at childcare facilities (kindergartens, nursery schools, certified children's schools, etc.) in Japan.

We will explain the five typical rules.

- ① Stick to the set time
- ② Necessity of notification of absences, etc.
- ③ Participation in events and meetings
- ④ Attending the childcare facility on a day when the parent's work is off.
- ⑤ Transportation to and from the childcare facility
- ⑥ Children's and parents' clothes and belongings

Stick to the set time

Childcare facilities have rules for arrival and drop-off times. When you take care of your children in a childcare facility, you must arrive by the appointed time. If you are going to be late, you will need to contact the childcare facility in advance.

Necessity of notification of absences, etc

•Need (need) for notification of absence (absence) and tardiness (tardiness)

If a guardian is unable to take a child to the childcare facility, or if the child is absent, you need contact the childcare facility as soon as possible. For the safety of children, if there is no notification that the child will be late or absent, the childcare facility, will contact the home.

In order to reduce the amount of work at childcare facilities, please contact as soon as possible.

•Delegation of pick-up person

When it is difficult for guardian to send a child to childcare facilities due to work or other errands, you will need to specify a replacement pick-up person. In that case, it is necessary to inform the childcare facility of this fact. You may be required to submit a power of attorney. This is very important for the safety of children.

•Mutual communication using contact book.

In order to facilitate communication between guardians and childcare facilities, many childcare facilities use contact book. Daily events, the child's health status, important information, etc. are written down. Please be sure to read the contact book. If you have anything you would like to tell the childcare facilities, such as how your child is doing at home, please write it in the contact book.

Participation in events and meetings

When there are sports days and presentations in which parents participate, childcare visit days, parent-teacher meetings, interviews, etc., participate as long as there are no special errands. These are important opportunities to understand how children are doing at the kindergarten and to educate and care for the children. Please avoid wearing shoes with high heels and clothing that makes it difficult to exercise.

If you are unable to participate due to work, another family member should participate on your behalf. When participating, make sure you keep on time for the start time.

Attending the childcare facility on a day when the parent's work is off.

Kindergarten children are allowed to attend kindergarten even if their guardians have a day off from work if it is a school day. can do.

Even in nursery school and certified nursery school children are allowed to go to the childcare facility on days when parents are off from work. But it's different from a day when you have work to do.

- Contact childcare facility in advance

When you send your child to kindergarten on a day off from work, let facility know that it is a day off from work .in advance. If you are going out somewhere, please tell the facility where you are going. Facilities need to contact guardians in the event of a disaster such as an earthquake or when a child's physical condition is unwell.

- Avoid using extended childcare hours

Childcare on days when parents have days off is the same as short-time childcare, and childcare is limited to 8 hours or less per day. .

Transportation to and from the childcare facility

In Japan, there are many kindergartens where children are picked up and dropped off by school buses, but nursery schools are where children are picked up and dropped off by their guardians. There are rules for transportation. For the safety of children and the smooth operation of the facilities, please follow the rules for pick-up and drop-off.

- When using the school bus

A guardian or family member must accompany the child to the bus stop. Please stay with

your child until your child boards the bus.

- [When guardians pick up and drop off children](#)

Guardians and family members are responsible for dropping off and picking up their children from nursery school. Guardians must decide who will pick up and drop off their child and notify the nursery school of this decision. If the designated person is unable to pick up or drop off the child, it is necessary to contact the nursery school in advance.

- [Use of parking lot](#)

If parents are picking up and dropping off their children by car, please park the car in the kindergarten's parking lot. Please do not park in areas other than parking lots. When parking, please follow the instructions of the parking lot attendant and park in order.

Clothes, belongings, etc. of children and guardians

- [Children's uniforms, gym clothes, etc](#)

Some facilities have designated uniforms, gym uniforms, etc. In that case, please make sure to wear what is specified. Uniforms are used to encourage children from the same kindergarten to have a sense of camaraderie. Wearing a uniform reduces the cost of clothing for children.

Make sure your children's clothing is appropriate for the season and weather.

Avoid wearing shoes with high heels and clothing that makes it difficult to exercise.

- [Bring a change of clothes for the child](#)

At the facility, children play outside or make things, and their clothes sometimes get soiled. Bring a clean change of clothes every day. This allows children to feel comfortable and have a good time.

- [Guardian's clothing](#)

Generally speaking, neat and clean clothing is preferred in Japanese nursery facilities.

If you have an event to attend, it is safe to wear such attire.

- [Write the name on personal belongings](#)

By writing your child's name, your child will be less likely to mistake things for other children's belongings, and it will be easier to manage. Some facilities have a rule that children are not allowed to bring personal toys or other items that are not necessary for childcare into the facility. This is to prevent toys from being scrambled, lost, or broken.

- [Bring shoes for indoor use](#)

In Japanese daycare facilities, children wear indoor shoes when indoors. Parents should also bring indoor shoes when going to a facility. This will help maintain the cleanliness of the facility.

[More details about what to bring are explained in the next chapter.](#)

4. Preparation for admission

There are some things you should prepare before entering the childcare facility. If you prepare well, your child will be able to go to kindergarten with peace of mind and fun.

There are four things to prepare:

- (1) Acquire lifestyle habits
- (2) Participate in the childcare facility 's information session
- (3) Gather the necessary belongings
- (4) Make children look forward to going to childcare facility

(1) Establishment of lifestyle habits

Help children acquire good daily habits basics (eating, sleeping, excretion, cleanliness, and putting on and taking off clothes) before entering childcare facility. This will help children adapt to kindergarten life.

The following are some habits that your child should develop before entering childcare facility.

- Inculcate the habit of waking up one hour before going to childcare facility (from 1 year old)
- Wake up and go to bed at the same time every day as much as possible (from 1 year old).
- Have regular meals (from 1 year old)
- Develop the habits of excreting, washing hands, and gargling (from 2 year old)
- Enable greetings(good morning, hello, goodbye, thank you) (from 2 year old)
- Able to put on and take off clothes by oneself (from 3 year old)

(2) Participate in a facility information session

At childcare facilities, information sessions are held for guardians whose children are enrolled. Participate in the information session and learn about the procedures for admission, childcare fees, and the atmosphere of the facility, learn the facility's programs, events, etc. Choose a facility that suits the way you think and the personality of your child.

- Guardian or family member must attend the kindergarten entrance information session.
- During the information session, check the rules of the school, what to prepare, etc.,

and ask questions about anything you don't understand.

- If you are unable to attend the information session, you contact the childcare facility to schedule a visit.

(3) Preparation of children’s belongings

Before entering the childcare facility, be sure to prepare the necessary items.

- Make sure to write child's name or put a name sticker on it.
- Attach a name tag to items made of cloth.

Things to prepare before entering the childcare facility

0 year old child/1 year old child
<ul style="list-style-type: none"> • Uniforms, bags, hats, backpacks, gym uniforms, and smocks specified by each Childcare facility • 2 set of changing clothes (underwear, shirt, jacket, pants, socks, bib) (During childcare, children get wet or dirty, so prepare items that are easy for your child to move around in, change clothes, and don't mind getting dirty) • A bag that can hold changed clothes • Indoor shoes, bag for indoor shoes • Hand towel for towels (to hang on a towel rack, put a ring on the end of the towel)) • 2 bath towels for napping (one to put on the bottom and one to hang on top) • Eating apron, spoon, fork set, cup, cup bag , lunch box, water bottle • Baby bottles, replacement mouthpieces, powdered milk, age-appropriate baby food • Multiple diapers and 2 baby wipes
2 year old child / 3 year old child
<ul style="list-style-type: none"> • Uniforms, bags, hats, backpacks, gym uniforms, ad smocks specified by each Childcare facility • 2 set of changing clothes (underwear, shirt, jacket, pants, socks, bib) (During childcare, children get wet or dirty, so prepare items that are easy for your child to move around in, change clothes, and don't mind getting dirty) • A bag that can hold changed clothes • Indoor shoes, bag for indoor shoes • Hand towel for towels (to hang on a towel rack, put a ring on the end of the towel)) • 2 bath towels for napping (one to put on the bottom and one to hang on top) • Eating apron, spoon, fork set, cup, cup bag , lunch box, water bottle • Multiple diapers and 2 baby wipes

<ul style="list-style-type: none"> • Tooth brushing set, toilet training set • Handkerchief , tissue paper • Tool box (can hold crayons, paints, colored pencils, bag, scissors, and glue)
4 year old child / 5 year old child
<ul style="list-style-type: none"> • Uniforms, bags, hats, backpacks, gym uniforms, ad smocks specified by each Childcare facility • 2 set of changing clothes (underwear, shirt, jacket, pants, socks, bib) (During childcare, children get wet or dirty, so prepare items that are easy for your child to move around in, change clothes, and don't mind getting dirty) • A bag that can hold changed clothes • Indoor shoes, bag for indoor shoes • Hand towel for towels (to hang on a towel rack, put a ring on the end of the towel)) • 2 bath towels for napping (one to put on the bottom and one to hang on top) • Eating apron, chopsticks, cup, bag, lunch box, water bottle • Toothbrushing set • Handkerchief , tissue paper • Tool box (can hold crayons, paints, colored pencils, bag, scissors, and glue)

(4) Make children look forward to going to childcare facility

• Let's make sure that your children look forward to going to childcare facility. Let's talk to your child that when you go to kindergarten “there are lots of fun things to do”, “you have a lot of friends,” and “you have a kind teacher.

• Participate in acclimation daycare. Acclimatization daycare is a period of experience of childcare facility life in order for the child to become accustomed to nursery school life. Children experiencing facility life for the first time feel anxious about being separated from their families. By experiencing this, children's anxiety will gradually decrease.

There are some daycare facilities that do not offer acclimation daycare trial climbing, so please ask the school.



Smock



bib



canteen



gym suit

5. When you have something to worry about

What should you do if you have concerns about my child's admission to childcare facility? We will explain what to do about six things that many foreign guardians worry about.

- (1) My child may not be able to get used to living in the childcare facility.
- (2) My child may get tired of going to childcare facility.
- (3) I may have difficulty communicating with teachers.
- (4) Will my child be able to get along well with Japanese friends?
- (5) Will my child be able to eat Japanese school lunches?
- (6) My child may forget his/her native language.

(1) Adaptation to facility life

◎Things to worry about

- Feeling anxious or reluctant to go to the nursery school.
- My child doesn't seem to be having fun at the childcare facility.
- My child cannot play with other children at the childcare facility.

◎How What to do it

- Take your child to places such as the nursery room, garden, playground equipment, and toilets at the childcare facility. Even at home, it's a good idea to confirm the location using maps and photos of the childcare facility. If the child knows where the place is, he or she will feel less anxious.
- Work with your child to confirm how children will spend their time at the childcare facility.
- Talk to your child about the fun activities and games in Japanese childcare facility. Parents and children can have fun by participating together in the events held at the childcare facility. When guardians have fun, the same feeling of fun is passed on to their children.
- Create opportunities for your children to play with other children. Guardians should also increase their conversations and involvement with other parents. As the relationship between guardians increases, the children also become friends with each other.
- Participate in events and play a role. When children see their parents doing well in the childcare facility, your children become energetic.

(2) Children's fatigue, anxiety, and stress

◎ Things to worry about

- My child is tired of the unfamiliar kindergarten life
- My child has trouble getting up in the morning
- My child looks anxious
- My child doesn't eat much food

◎ How what do it

- Know the causes of fatigue, anxiety, and stress.

Living in a new place or in a foreign country can make children anxious. Differences in ways of eating, greeting people, buying things, etc. Not being able to understand clearly what is being said or not being able to express one's feelings in words are also causes of stress.

• Be aware of signs of fatigue, anxiety, and stress. When children feel stressed, you will see something like this: .

Doesn't want to go to the kindergarten.

Emotions become unstable, such as getting angry or crying easily.

Yelling, throwing things, or becoming violent toward parents or friends.

Leaves the nursery room, moves around a lot, is absent-minded, or lies down.

Loss of appetite

Difficulty getting up in the morning

Pacing in the middle of the night.

Not being able to leave the teacher's side or avoiding the teacher.

- Please consult with your child's teacher.

If you feel that your child is tired, anxious, or stressed, please talk to your child's teacher first. Then the teacher will respond in a way that does not make the child tired (speaking in the child's native language using picture cards, photos, body language, taking time to explain things one by one, building relationships with friends, etc.).

- At home, maintain a regular rhythm of life.

The most important thing is to get enough sleep. Set a bedtime and finish eating and bathing two hours before bedtime. Avoid using smartphones, tablets, PCs, etc. Turn on indirect lighting in warm colors and try to sleep in a quiet room.

- Activities to relieve fatigue

Let's try to increase the time for skin-to-skin contact. Playing games your child loves with your family, reading picture books to him or her, drawing pictures, playing outside, playing with pets, and telling stories about vegetables and flowers will help to cure your child's tiredness.

(3) Communication with the teacher

◎Things to worry about

- I can't understand what the teacher is saying
- I can't tell my story to the teacher
- It is difficult to talk to the teacher about my child
- I don't really understand the meaning of what is written on the printouts and messages .

◎How what to do it

- Tell your teacher how well you can understand Japanese. At this point, it is best to ask for help from an interpreter or specialist if possible. The teacher will try to explain things to you according to your level of understanding of Japanese.

- Use the interpreter services available at the childcare facility or the translation app on your smartphone. You've also asked your child's teacher to use a translating app.

- Use illustrations, photos, and real objects to explain along with words and phrases.

If you want to communicate how your child is doing at home, it may be a good idea to use video. Your teacher will also use illustrations and photographs to explain things to you.

- If the childcare facility uses a communication app for parents, make sure that it can be used in your language. If you can't use a word in your own language, ask for a translation of how to use it. It is best to use it together with a translation app.

- Increase your chances of interacting with your teacher by smiling and having a simple conversation. Ask your teacher to speak to you using simple words and short sentences.

(4) Relationship with your child's friends

◎Things to worry about

- Will my child get along well with his or her friends?
- Will it be okay if my child doesn't speak Japanese?
- Foreign children may be more susceptible to bullying.

◎How what to do it

- Young children do not care about differences in language or skin color. Although young children may understand the differences, they still become friends.

- Children have a great ability to adapt to their environment. Even if they don't understand the language, it doesn't matter and they play together. Children quickly become friends even if they do not speak the language. Children of foreign

nationality gradually learn Japanese.

- Before entering childcare facility, take your child to a park where children of the same age are playing, and create opportunities to play together. Use simple Japanese picture books to teach your child greetings and the names of things.

- Bullying also exists in the world of young children. Bullying of young children includes using violence, ostracizing others, saying bad things, and hiding things. You need to know if your child is being bullied.

- Signs that a child is being bullied include the following behaviors: Doesn't want to go to the kindergarten. Often complain that their head hurts and stomach hurts. There are always little scratches. Writing graffiti on clothes and other belongings. Suddenly becoming quiet or unable to smile. Loss of appetite. The evil of falling asleep. Child's belongings going missing. Increasing finger sucking and nail biting. Won't talk about what happened at the childcare facility.

- If you feel that your child is being bullied based on your child's story or behavior, talk to the teacher immediately. The teacher should confirm the facts, help the bully understand the feelings of the child who is being bullied, and provide guidance to the children who are bullying so that they do not repeat the bullying. The teacher will talk to the parents of the child who bullied, report the facts, and ask for their understanding. Teachers also work with facility staff to resolve problems.

- At home, increase the time for skin-to-skin contact, reading picture books and playing with the child, as mentioned in the section "Children's fatigue, anxiety, and stress,".

(5) School lunch

◎Things to worry about

- My child has food allergies and cannot eat some foods.
- There are some foods that we cannot eat for religious reasons.
- My child has a hard time getting used to Japanese food and tastes.

◎How what to do it

- Tell the school nutritionist and classroom teacher about dishes, ingredients, and seasonings that your child cannot eat. Be sure to ask what is included in the seasonings.

- Look at the school lunch menu and check the dishes and ingredients that your child cannot eat. If you have any questions about cooking or ingredients, please ask a nutritionist.

- If there are dishes or ingredients that your child cannot eat, ask if the childcare facility can prepare school lunches that do not include them. If the school is not prepared, please

bring a boxed lunch for your child. It is best to have a boxed lunch that is similar to the school lunch that day.

- If your child cannot eat, ask him or her eat less of the school lunch at first, and then gradually increase the amount as he or she is able to eat. Praise your child when he or she eats even a small amount of food. Let's incorporate Japanese cuisine and ingredients into your meals at home.

- Enjoy eating Japanese food with your children, have fun with things, and try to get them interested in Japanese food. It is a good idea to talk about the similarities and differences with your own country's cuisine.

(6) Child's native language

◎Things to worry about

- Is it better for parents to speak Japanese instead of our native language?
- Is it possible for my child to forget his or her native language?
- My child may become deficient in both his or her native language and Japanese.

◎How what to do it

- Instead of forcing parents to speak Japanese, try to enjoy talking to your child in his or her native language. Enjoy the conversation with your child.

- You don't have to teach your child Japanese at home. Children learn Japanese while living and playing in childcare facility. Infants and toddlers learn words very quickly.

- Create opportunities to speak in your native language at home as much as possible. As children become fluent in their native language, they will also become fluent in Japanese.

Children will be able to use their native language and Japanese depending on who they are talking to.

- At home, let your child become familiar with and interested in his or her native language and culture. Let your child read and listen to picture books in his or her native language and teach him or her songs in their native language.

- If there is a gathering or event that brings together people from your home country, take your child. Let's create opportunities for your child to experience the native language and culture. You will be able to understand the language and culture of both your home country and Japan.

If you have any other concerns, please feel free to contact your child's classroom teacher.

6. Questions, complaints, and requests from foreign guardians

Just as there are differences in customs, culture, and values, there are also differences in childcare practices in each country. For this reason, foreign guardians often have doubts or complaints about childcare methods, facilities, equipment, rules, The following are some of the questions, complains and requests that guardians of foreign nationalities have:

Questions and complains of foreign parents

- Childcare time is short
- Many days off for childcare facilities
- Doubts about childcare events
- Can't understand the words that teacher speaks
- The taste of the school lunch is tasteless and the ingredients are cut into large pieces.
- Can't get used to the uniform at the childcare facility
- Worried about what clothes to wear to parent-teacher meetings?
- The teacher takes too much care of the children

Requests from guardians of foreign nationality

Using translation apps when talking to guardians
Opportunity to interact with Japanese parents
Teaching Japanese reading and writing to children
Breakfast provided
Transportation by car
Installing a camera that allows me to see what your child is doing
Teachers' multicultural understanding

We would like parents of foreign nationalities to understand and accept the circumstances of Japanese schools as much as possible. We will explain each question, complaint, or request from the guardians one by one.

☆Answers to questions and complaints of guardians

Childcare time・ Day off for childcare facilities

Many guardians who send their children to kindergartens are dissatisfied with the amount of childcare time and the amount of day off from childcare. Kindergarten is originally a facility solely for education. For this reason, it was normal to start around 9:00 am and end around 2:00 pm. However, many kindergartens now provide "regional childcare service" for working parents after the school hours are over. You can get an "regional childcare service" even during summer vacation or winter vacation. This service ends around 6pm. For guardian who work regularly, it is better to choose a nursery school or a certified nursery school. If guardians who have a job, it is important to know whether there is "regional childcare service" and what time does it end?

You can leave your child at a nursery school or certified nursery school for up to 11 hours a day. Since nursery school or a certified nursery do not have summer or winter vacations, most people have enough time to work.

However, guardians who work at night cannot leave their children in these facilities. In that case, you will have to leave your child at a night nursery school or baby hotel. If there is no night nursery, you will have to use a baby hotel.

Explanation of the childcare facility' rules in advance

Until now, many of Japan's early childhood education and childcare facilities had never accepted children of foreign nationalities, and there were situations where they did not know what to explain to the guardians of foreign nationalities. However, the number of childcare facilities that have experience in accepting infants of foreign nationality has increased, and it has come to be understood that it is necessary to explain to the guardians of foreign nationalities.

Guardians of foreign nationalities should visit the childcare facility before the children enter there and receive an explanation of the rules. If there is something you don't understand or are not satisfied with, you should ask questions or convey your requests. The childcare facilities in Japan try to accept foreign customs and values as much as possible.

The general rules for childcare facilities in Japan are explained in the previous chapter

Doubts about childcare events

Childcare events are part of Japan's childcare culture. The childcare events experienced at the childcare facility will remain in the hearts of the children forever. Guardians of foreign nationalities have questions about events related to religion, such as Christmas parties and visits to shrines.

In Japan, these activities are not carried out with religion in mind. For example, we do not pray or sing hymns at Christmas parties. However, it is understandable that there are guardians of foreign nationalities who do not want such events to take place. The understanding of this has deepened in the childcare facilities, the Christmas party has been stopped or changed the name in many childcare facilities.. In Japan, there are christian and buddhist childcare facility.

In such facilities, there are religious events. Investigate whether or not it is a religious facilities.

Words used by teachers

It seems that many guardians talk to your child's teachers in Japanese or using both Japanese and English. Other foreign languages are rarely taught in childcare facilities in Japan.

Recently, there have been more and more childcare facilities that use translation app. Guardians should be able to use the translation app. If your teacher isn't using a translation app, ask him or her to use it.

For conversations with teachers, use a translation app.

The flavor of school lunches is tasteless The ingredients are cut into large pieces

One of the characteristics of Japan's food culture is that the colors are beautiful, the taste is light, and the ingredients are cut into large pieces. The reason why there are so many light flavors is that we want to make the most of the taste of the ingredients as much as possible. The reason why we cut the ingredients into large pieces is because we want to preserve the beauty of the ingredients as much as possible.

There are other reasons why school lunches have a faint taste. This is to prevent excessive intake of salt. Children who consumed a lot of salt when they were children will take a lot of salt even when they become adults. This is one of the causes of adult diseases

When children eat food that has been cut into large pieces, their chewing power

becomes stronger. Please understand that there are reasons for this. Children quickly become accustomed to the flavors and ingredients.

Uniform for children in childcare facilities

In childcare facilities in Japan, children are basically free to dress freely. But some childcare facilities have a rule that children must wear the uniform decided by the facilities.

There are many good things about uniforms. Uniforms mean you don't have to think about what clothes to wear, you don't have to spend money on clothes, and you can be friends and companions. There are many good things about them, such as their awareness. You don't have to think about what clothes to wear, you don't have to spend money on clothes, children have a sense of friendship and camaraderie.

Guardians who do not want their children to wear uniforms should consult with the childcare facility.

Guardians' clothing for going to the childcare facility

Some parents in Japan are careful about what they wear at parent-teacher meetings. Some parents may come wearing fancy and expensive clothes. Generally speaking, neat and clean clothing is preferred in Japanese. In particular, it is customary for parents to wear proper clothes at entrance ceremonies and graduation ceremonies. Please be aware of this. However, parents should feel free to participate in regular events and parent-teacher meetings. Please don't worry about what you wear, go to the event wearing casual clothes.

Care of children by teachers

Japanese teachers value physical contact with children and respond as much as possible to children's requests. If the children are unable to do something, the teacher will carefully help. Seeing this, you may feel that the teacher is taking too much care. However, teachers value children's independence. Independence means "doing what I can do myself" and "thinking and making decisions for myself."

When a child cannot do something, the teacher didn't help immediately. The teacher encourages the children to do it on their own, even if it takes time. When a child asks a question, the teacher does not give the answer immediately. Teacher ask a children, "What is it?" and "Why?"

Japanese teachers value both careful care and children's independence.

☆ Answers to requests from guardians

Opportunity to interact with Japanese guardians

Interactions between Japanese parents and parents of foreign nationalities are very important for understanding mutual attitudes, values, and customs. As the relationship deepens, guardians of foreign nationalities will be able to get information about living in Japan from Japanese guardians. Childcare facilities will provide opportunities for interaction.

Guardians of foreign nationalities should actively talk to Japanese guardians.

Teaching Japanese to children

In childcare facility in Japan, Japanese children are taught only a basic level of reading and writing in hiragana. Children of foreign nationalities will naturally be able to read and write hiragana while living in childcare facility. Japanese elementary schools provide special Japanese instruction to children of foreign nationality. If children of foreign nationality can't speak Japanese, he or she won't be able to keep up with his or her studies. It's okay for young children to not be able to speak and write Japanese. Young children quickly acquire the necessary Japanese in their daily lives.

Breakfast provided

Some guardians may be so busy in the morning that they don't have time to make breakfast for their child. In China, there seem to be many kindergartens that serve breakfast and dinner. In Japan, it is not possible to provide breakfast for children. Only lunch can be provided. This is because breakfast is not included in the childcare fee. For children in long-term child care, breakfast and dinner are important times to talk with their families. You should eat breakfast and dinner with your child

Transportation by car

In Japan, many private kindergartens use school buses to pick up and drop off children for a fee. But there are very few public kindergartens that pick up and drop off children. In addition, 16.8% of the total number of nursery schools and certified nursery schools that pick up and drop off children by bus. On the school bus, the

teacher rides with the children.

At nursery schools in Japan, it has been the responsibility of guardians to pick up and drop off their children. In addition, if the nursery school pick up and drop off children by school bus, the burden on the teacher will be very heavy. In addition, it costs a lot of money. Unlike kindergartens, children generally go to a nursery school near their homes. This is the reason why childcare providers do not use school buses.

Web camera installation

Guardians can rest assured that they can check the state of their children with a webcam. Some childcare facilities have webcams that allow guardians to watch their child at home. Currently, many childcare facilities have apps that allow guardians to view photos and videos of children even if they are not in real time. Also, in Japan, there is a contact book in which teachers and guardians tell each other how their children are doing in childcare facilities. This gives you how your children are doing at the facility.

Teachers' cross-cultural understanding

It is very important for teachers to understand multiculturalism. Teachers need to understand the cultures, values, lifestyles, and customs of various countries, as well as the characteristics of early childhood education and childcare. In addition, teachers need to think about multicultural coexistence. Multicultural coexistence means accepting cultures and values that are different from one's own country, and creating a life that is mutually acceptable. We would like to take training to promote this kind of understanding.

Currently, in Japan, training schools that train teachers in childcare facilities are teaching classes on multicultural understanding. Guardians of foreign nationals should also understand multicultural coexistence.



この手引きは、日本学術振興会科学研究費助成事業
(課題番号 20K02696、研究代表者:田中敏明)の助
成を受けて作成されたものです。

外国籍の幼児を持つ保護者のための日本の保育施設入園と園生活の手引

2024年2月15日発行

執筆者

田中 敏明 (豊岡短期大学特別招聘教授・
福岡教育大学名誉教授)
川俣 美砂子 (中村学園大学短期大学教授)
杉村 智子 (帝塚山大学教授)
矢野 洋子 (九州女子短期大学教授)
古野 愛子 (昭和学院短期大学准教授)
今津 尚子 (九州女子大学教授)

イラスト

奥村 優葉

印刷・製本

(有) 米田印刷